

創大中国論集

第 22 号

岡島冠山著『唐話纂要』の「常言」に関する一考察

— その出典と受容した教訓を中心として — 高橋 強
耿 蘭(1)

社会主義中国と創価思想 樋口 勝(33)

資中筠「改革開放」観 李 燕(49)

創価大学文学部人間学科中国語メジャー

2019年3月

創大中国論集

第22号

創価大学文学部人間学科中国語メジャー

2019年3月

岡島冠山著『唐話纂要』の 「常言」に関する一考察 — その出典と受容した教訓を中心として —

高橋 強
耿 蘭

目次

はじめに

1. 岡島冠山について
2. 『唐話纂要』について
3. 「常言」の出典
 - 3-1. 「白話小説」等
 - 3-2. 『明心宝鑑』
4. 「常言」に見る人生訓、処世訓
 - 4-1. 『水滸伝』の視点から
 - 4-2. 『明心宝鑑』の視点から
 - 4-2-1. 「省心篇」
 - 4-2-2. 「継善篇」
 - 4-2-3. 「正己篇」
 - 4-2-4. ①「天理篇」、②「存心篇」、③「順命篇」、④「治家篇」、
⑤「孝行篇」、⑥「安分篇」、⑦「戒性篇」、⑧「訓子篇」、
⑨「立教篇」、⑩「安義篇」
5. むすびに

はじめに

18世紀後半の日本において、唐話（中国語）学習ブームがあった。そのブームに大きな影響を与えた辞書或いは教科書がある。それは『唐話纂要』で、最初の唐話入門書であり、しかもそれ以後の追随を許さぬ程のものであったと言われる。同書は唐通事（稽古通事）出身の岡島冠山によって著された。同ブームの特色の一つに唐話を音読で学習するという方法がある。従って『唐話纂要』には中国語の読み方（今日、それを唐音と称する）が付されている。同書は学習過程として、二字中国語、三字中国語、そして最後には六字中国語を使って、まず会話を通して学習に取り組んでいる。その後に142条の「常言」（通俗ことわざ）が置かれている。会話を通して学習した後に、次は文を教材にして更なる唐話のレベルアップを目指したのであろう。

これまでこの「常言」に関しては、少なからず研究されて来ており、その成果も少なくない。しかしながら、会話学習の後に何故にそんな多くの「常言」が置かれたのか、またその配列の順番はどのようなルールに基づくのか、更にどのような教訓が収載されているのか等については、あまり明確にされてこなかった。本稿は以上のような問題点を明らかにすることを試みる。

1. 岡島冠山について

岡島冠山（1674-1728・延宝2年-享保13年）は、江戸時代中期の漢学者（宋学に通じていたといわれる）で、名は明敬、のちに璞、字は援之、または玉成で、通称は弥太夫と呼ばれた。⁽¹⁾

冠山は長崎で生まれ十五歳の時、南京内通事（稽古通事）に従事しながら唐話を国思靖（別名を上野玄貞、1661-1713）に学んだ。語学の才能については卓越していたといわれる。国思靖は杭州海寧の儒者蔣眉山に、また渡

来僧で興福寺の四代住職を務めた澄一道亮に中国語を学んでいる。国思靖はのちに興福寺下に私塾福源社学を開いたが、冠山はその私塾の門弟にいた。『崎陽熙々子先生華学圈套』は国思靖の著作として残る写本である。全体は十二支の数に趣味的な諸芸（中国の音曲、小説、茶、将棋など）を集めたもので、子・丑の2巻が欠けているが、寅から亥までが残っている。二十歳の時（1692）、荻藩の毛利吉就に仕えたが致仕して長崎へ帰り、南京内通事として働いた。二十九歳の時（1701）、「生活が逼迫して渡世困難、他国へ出て商売でもしたい」との理由で、職を辞している。

三十二歳の時（1704）、江戸に出て、秋頃、書肆、林義端と会い英烈・水滸の二つの翻訳を依頼されている。三十九歳の時（1711）、荻生徂徠の護園学派の人々が開いた唐話学の講習会「訳社」の講師となり、以後江戸における唐話学の普及に努めた。門下に多くの唐話学者を輩出するとともに、江戸と京都との学問的交流の道を開いた。唐話学研究ブームは中国白話（口語体）小説への傾倒を促した。

後に京都へ上り、1728（享保13）年、中国白話小説『忠義水滸伝』に訓点を付して翻刻したが、10回まで刊行して没（没後20回まで刊行）。1757（宝暦7）年に『忠義水滸伝』の和訳『通俗忠義水滸伝』が、1790（寛政2）年にその『拾遺』がそれぞれ遺稿として刊行され、読本流行の端緒となった。

以下は冠山の主な業績である。

- ①1705（宝永2）年3月、『通俗皇明英烈伝』20巻を翻訳した。
- ②1716（享保元）年9月、『唐話纂要』半紙本5巻5冊の初刊が発刊された。『唐話類纂』（未刊）には、明らかに『唐話纂要』の原型的要素の痕跡があることが認められる。
- ③1719（享保4）年には『太平記演義』5巻30回を著述した。この本は日本の『太平記』を『水滸伝』や『三国志演義』のような中国風の演義体の白話小説に仕立てたものである。

- ④1723（享保8）年、『康熙帝遺紹』1巻、冠山口読として江戸・板木屋甚四郎から刊行した。
- ⑤1725（享保10）年9月には『字海便覧』7巻7冊を刊行。
- ⑥1726（享保11）年には『唐訳便覧』5巻5冊を刊行。
- ⑦1726（享保11）年には『唐話雅俗語類』5巻5冊を刊行。
- ⑧1726（享保11）年11月には『唐音三体詩訳読』3巻3冊を刊行。
- ⑨1727（享保12）年には『唐音学庸』乾坤2冊を刊行。
- ⑩1735（享保20）年には『唐話使用』6巻6冊を刊行。

このような冠山の活動は、唐話に関する言語習得の拡がりをもたらし、唐話辞書、俗語辞書の編纂、白話小説、通俗物の流行、さらには読本の発生に繋がっていった。

2. 『唐話纂要』について

『唐話纂要』は、岡島冠山が編集した最初の辞書で、その初刊は1716（享保元）年9月であった。その後1718（享保3）年1月に巻六「和漢奇談」を追加して再刊された。この部分は冠山の創作と思われる「孫八救人得福」と「徳容行善有報」という長崎を舞台にした短編白話小説風の物語である。⁽²⁾

冠山は南京内通事であったから『唐話纂要』の唐話は南京語系であったと考えられる。またその南京語には、先生の国思靖の先師は浙江省杭州府錢塘県からきた澄一道亮と杭州の儒者蔣眉山であったので、杭州の訛りが多少入っていたのではないかと推測されている。⁽³⁾

「各巻の構成」

「巻之一」

二字話「太平」以下26ページ、153行、765語

三字話「有才華」以下20ページ、119行、476語

「卷之二」

四字話「今日何往」以下40ページ、238行、714例

「卷之三」

五字話「今日天色好」以下20ページ、118行、118例

六字話「今朝天氣不好」以下20ページ、118行、118例

常言「平常不作虚亏心事、半夜敲门不喫驚」以下22ページ、142例

「卷之四」

長短話「今天下太平。四海無事。上憫下勞。下沐上恩。歡声四起。朝野俱樂。而重值堯舜之時也。恭喜恭喜」以下40ページ、57例、28組の對話形式

「卷之五」

親族114個、器用432個、畜獸48個、蟲介110個、禽鳥82個、龍魚105個、米穀40個、菜蔬90個、果蔬47個、樹竹67個、花艸100個、船具87個、数目33個、小曲10曲（青山、崔鶯、張君、桃花、一愛、一更、二更、三更、四更、五更）、疋頭37個

「卷之六」

和漢奇談 有點四聲（去入上平）「孫八救人得福」の寓話文、16ページ、125行、2334字。

翻譯文「奇談通俗 孫八救人得福事二」と「徳容行善有報」13ページ分、104行、1951字、翻譯文

（「奇談」とは教訓・啓蒙を目的とし、語りの場を枠組みとしてもつ、面白い話を集めたもの。）

各巻の構成から概観するに、学習法としては、以下のような過程が考えられる。まず学習者は二字から始め、二字から三字へ、三字から四字へと、短い句から徐々に長い句へと、傍注に基づいて発音練習を繰り返し、暗唱す

る。そして、最終的には、「常言」から「長短話」という完全な文を話すことができるようになることを目指す。このように「二字話」「三字話」と順序立てて学習する方法がとられているので、「二字話」「三字話」という分類は、検索に資するためのものではないとの指摘もある。この観点にたてば、『唐話纂要』はむしろ「辞書」ではなく「教科書」ということになる。⁽⁴⁾

注解方式は、①見出し語を挙げて、傍らにその漢字の中国語の発音をカタカナで表記し、②見出し語の下に、カタカナで和訳を記し、③「長」「好」「中」「行」のように意味の違いによって中国語の発音が変化する字には、「○」を付し、④長い熟語（あるいは慣用句）には、その傍らに訓点を記している。『唐話纂要』は音読法で唐話を学習するという目的から考えると、何ゆえに訓読が付されているのであろうか。唐話を訓読によって理解したいという需要があったとの指摘もある。⁽⁵⁾ なお本書では「卷之六」のみに声調の記載がある。

3. 「常言」の出典

「常言」は『唐話纂要』の「卷之三」の中に置かれている。「常言」の表示の仕方は、前述の注解方式と同じである。なおここでも同じような疑問が出てくる。即ち中国語を音読を通して学習する為に編集された『唐話纂要』にもかかわらず、何ゆえに訓読が付されているのであろうか。一つは学習者への便宜が考えられるが、一方、当時の儒者たちに対し、冠山の卓越した語学力に加えて、日本の儒者の伝統である「訓読」の能力を有していることを示すためであったとも言われる。⁽⁶⁾

会話の次の教材として「常言」が選ばれたのはなぜであろうか。「常言」を教材として選んだ背景には、唐通事の中国語教育の独自のスタイルがあったと考えられる。⁽⁷⁾ 唐通事は語学学習の必要性から、『唐通事心得』『長短拾話

唐話』『訳家必備』『琼浦佳話』『小孩児』『官話纂』『養兒子』など多くの官話による通事本を残した。そしてその特徴は、①平易かつ口語的な「官話」による記述、②人生訓・処世訓が主なテーマ、③中国の「話本小説」の体裁による記述であった。即ち「話本小説」の枠組みの中に、目前の教育譚が注ぎ込まれたのである。

当時の中国の話本小説は、忠義、孝弟友愛などの五倫道德、勸善懲惡・因果応報などが主題であったので、ここでいう教育譚とは主にこのような内容であった。唐通事は通事本を通し、官話と教訓・職業倫理を身につけていったのである。唐通事にとって語学の学習とは、一方で口語的な官話を学び、同時に人生訓・処世訓を身につけることであった。

「常言」を教材として選んだもう一つの背景として、冠山が『通俗皇明英烈伝』の翻訳や、『水滸伝』の翻訳準備等を通し、そこから得られる人生訓・処世訓に高い関心を持ち続けていたと推測することができる。宝永2年の『通俗皇明英烈伝』の序文には、冠山に英烈水滸の二伝の翻訳を伝えた旨の記述があり、その当時すでに水滸伝翻訳の計画があったと言われる。この計画は冠山の『忠義水滸伝』に訓点を付した翻刻を経て、彼の没後1757（宝暦7）年に『忠義水滸伝』の和訳『通俗忠義水滸伝』として刊行され実現している。なお1726（享保11）年発刊の『唐話雅俗語類』には『水滸伝』の文句が出てくる。⁽⁸⁾

「常言」に関する研究について種々の課題はあるが、その中の一つに「常言」の出現順の問題がある。従来、その出現順の原則について、①成語、格言、俗諺など項目ごとの性質、文字数、②読み方（唐音）との関連性、③常用される使用頻度、④難易度の傾斜等の観点からの試みがあったが、いまだ明確な原則は見出せない。⁽⁹⁾

そこで本稿では各条目の出典の調査を試みた。その成果は「表1」に表されている。（「表1」参照）

表 1

番号	本文	唐音	解釈	出典	属篇	順	出典の言い方
1	平常不作虚亏 心事、半夜敲 門不喫驚	ビ・ンヂ・ヤンブ・ソコイ スイズ・ガ・ンゼキヤ。 ウヰ・ン・キヤ	平日ウシロ。クラキコトヲセザ ハ。半夜二門ヲタ、ケとも驚クこ とアラス	明心宝鑑	《新刻前賢 切要明心宝 鑑》(1)		平生不做亏心事、半夜敲門心不 驚
2	欲要生富貴須 下死工夫	ヨヤ、ウズ・エンガクイ ヌ、ヒヤココワ	フウキニナラント思ハ。ズイブ ン工夫イタスベシ	①西遊記 ②増広賢文 ③白兔記 ④水滸伝 ⑤古今小説			①②③欲求生富貴、須下死工夫 ④欲求生快活、須下苦功夫 ⑤欲求生受用、須下死工夫
3	把官路當人情	バ・ハハ・ロカクンガ ン	シフトノ物デ。アイムコ。モテナ スト云フこと	水滸伝			同じ
4	借花供佛	ウヰ、ハブ、コンヰ	同上	①殺狗勸夫 ②過去現在因果 経			①借花献佛 ②請寄二花以献于佛 "
5	家醜不可外揚	キヤツカガ・コウリヤ ン	家内ノ。アシキコトラハ。外ニモ ラスナ	①五灯会元 ②檀世恒言 ③二刻拍案驚奇			①家醜不外揚 ②③同じ
6	猫頭上子魚	マ、ウデ。ウジ・ヤ ン・イ	ズコニ。ナマイハシト云フこと	一			
7	只有錦上添花 那得雪中送炭	チ・ウキキンヅ・ヤチンハ ア、ガア、チエチョ ン・ツン	フウキノ者ニハ。ヒタスヲ物ヲ送 レとも。ヒンセンノ者ニハ。何セ 送ラスト云フこと	①平妖伝 ②初刻拍案驚奇			①只有錦上添花、哪肯雪中送炭 ②只有錦上添花、哪有雪中送炭
8	蝦蟆在天井裡 想天鵝肉喫	ヒヤマア、ウアイチン ン・リイヌヤエ・ウ ・ヨキ	カナハヌことヲ思フこと	①平妖伝 ②儒林外史 ③紅樓夢			①癩蝦蟆想著天鵝肉喫 ②癩蛤蟆想啖起天鵝肉 ③癩蛤蟆想喫天鵝肉
9	水中捞月	スイチンヲ。ウヰ	同上	沁園春			水中捉月
10	比上不足比下 有餘	ヒ・イン・ヤンブ・ヲヒイ ヒヤコカ	上ヲ見ハ。限リハナケレとも。下 ヲ見レハ。マダヨヒ内ト云こと	①太一生水 ②三輔決錄 ③鶴鶴賦			①不足于上者、有余于下、不足 于下者、有余于上。 ②上比崔杜不足、下比羅趙有余。 ③将以上方不足而下比有余

11	三人出外・小 的兒苦	サンジヤン・チヤウイキヤ。 サキカキ	三人打ツレテ。タビヨスルトキ ハ。ワカキ者ガ辛勞ヲスル	①蝴蝶夢 ②西遊記		①三人同行小防苦 ②三人出外小防苦
12	行路防跌喫飯 防噎	ヒヨウハンテキハンバン イ	用心シタガヨヒト云フこと	水滸伝		第十回：喫飯防噎、走路防跌 三十三回：喫飯防噎、行路防跌
13	寧可信其有 不可信其無	ニヨウシンギ・イェウ ・ユウシンギ・イ	イツソ。目二見テ。有ルことヲ。 マコト、ソ。目二見スソ。無キこ とハ。マコトニスナ	①盆儿鬼 ②増広賢文 ③封神演義		①②同じ ③寧可信有、不可信無
14	好事不如無	ハ。ウズ・ウヅ・ジ・イ ウ	ヨキことモ。ナキニハ。如ス	①明心宝鑑 ②金瓶随机無尽 頌・淨心行善分	11.13	同じ
15	好事不出門・ 惡事傳千里	ハ。ウズ・ウヅ・チヤエ ンチヤ・ウヅ・エツエリ イ	ヨキことハ。門ヨリ外二聞エシ テ。アシキことハ。千里ノ外エ 聞ユ	①景德伝灯録 ②水滸伝		①好事不出門、惡事行千里 ②好事不出門、惡事伝千里
16	走三家不如坐 一家	ツエカヤンキヤア・ジ・ユ イ・ヲイヤ?	方々ニ。アルカズトモ。コ、ニ 居ヨト云こと	西遊記		走三（三回五十回）/ 千（十回） 家不如坐一家
17	過則勿懼改	コウエハダ・ンカイ	アヤマリアラハ憚ラズ改ムヘシ	論語・学而		同じ
18	好漢惜好漢 猩猩惜猩猩	ハ。ウ・ハ・ア・ン・ス・エ・ハ。ウ ハ・ア・ン・ス・イ・ン・ス・エ・イ ン・ス・イ	豪傑ハ。豪傑ヲオシミ。猩猩ハ。 猩猩ヲオシム	水滸伝		第一回、猩猩惜猩猩、好漢識好 漢 十九回、猩猩惜猩猩、好漢惜好 漢
19	物悲其類	ウエ。ホ・キ・イ・イ	物ハ己カ類ヲ悲ム	①敦煌變文集・ 燕子賦 ②三国志演義 ③水滸伝		①狐死兔悲、惡（物）傷其類 ②③兔死狐悲、物傷其類
20	兔死狐悲	トウサウ・ホ・イ	頗ル上下同シ意	①敦煌變文集・ 燕子賦 ②宋史・李全伝 ③嶺南通 ④三国志演義 ⑤水滸伝		①狐死兔悲、惡（物）傷其類 ②狐死兔泣 ③同じ ④⑤兔死狐悲、物傷其類
21	一不做二不休	イ・ツ・カ・グ・ヒク	イタサズハ。イタサス。イタシ カ、リテハ。ヤメス	①奉天録 ②三俠五義		①第一莫作、第二莫休 ②同じ

22	單絲難織孤掌不鳴	カハウナンスエノカハ グシ	獨リニテハ。何事モ成就シガタシ ト云こと	①三国志演義 ②東周列国志 ③西游記 ④水滸伝 ⑤醒世姻缘伝			①②孤掌難鳴 ③④⑤单糸不線、孤掌難鳴
23	如漆似膠	ジ'ユイツ'エス'ウキヤ。 ウ	中ノヨヒこと	①史記・魯仲連 鄒陽列伝 ②水滸伝 ③喻世明言			①以股投漆中、誰能別离此 ②③如胶似漆
24	如魚似水	ジ'ユイ'エス'ウスイ	同上	①警世通言 ②喻世明言 ③東周列国志			同じ
25	虎不食伏肉	フガ'シカ'ジヨ	向フ顔ニ。矢タ、ズト云こと	水滸伝			大虫不喫伏肉
26	虎不生狗	フガ'スエ'カ。ウ	親ガヨケレハ。ワルヒ子ハ。ウマ ヌト云こと	三国志演義			虎父無犬子
27	不怕官只怕管	ブバ'ア、カハチ'ハ ア、カン	公儀ハ。コハクナクシデ。支配ス ル人ガ。コハイト云こと	水滸伝			同じ
28	官無三日禁	カウ、サジ'キン	公儀ノ三日法度ト云こと	①古今小説・臨 安里錢婆留髮記 (喻世明言の初 刻本) ②喻世明言 ③說唐三伝			①②官無三日禁 ③同じ
29	官不容針 通車馬	カウ、サジ'キフ '。ヨシキンスウシナエ、 マ、	オモテムギハ。キビシケレトモ。 内シヤウハ。ユルヤカナト云こと	①偈六十三首其 一 ②五灯会元			同じ
30	有錢可以通神	ユウエン'コウイ、トン '、ン	錢サエアレハ。神通モナル	①幽閑鼓吹 ②駕鸞被 ③水滸伝			①錢十方可通神矣 ②錢可通神 ③有錢可以通神
31	公人見錢如蒼 虫龜見血	コウ'シツ'コウ'エンジ' エイ'ン'カ'ヘ	公儀ノ役人ノ錢ヲ見ルハ。ハイ ノ。血ニタカル、ガ如シ	①水滸伝 ②醒世恒言			①②公人見錢、如蠅子見血

32	遠親不如近鄰 遠キ親ルイハ。近キ他人ニ如ス	エツクタイアブ ジ' エキ 'ンリ	①明心宝鑑 ②水滸伝 ③東堂老	①省心篇	11.231	①②同じ ③岂不聞遠親呵不似我近鄰
33	送君千里終須一別 ソバキヤンガエンリイイヨス エバ	ソバキヤンガエンリイイヨス エバ	馬陵道			同じ
34	一日拜師終身為父 イジバ' イスガチヨンシ ヲイ	イジバ' イスガチヨンシ ヲイ	①太公家教 ②西遊記			一日為師終身為父
35	殺人須要見血 ザン' スエ、ヤ。ウカ ンヒ	ザン' スエ、ヤ。ウカ ンヒ	①続伝灯録 ②水滸伝			①②殺人須見血
36	見讐人分外眼明 ケンサカザ' シンケンガハ ンミン	ケンサカザ' シンケンガハ ンミン	①神奴儿 ②水滸伝			①②讐人相見、分外眼明
37	家貧不足貧路 貧愁殺人 キヤビ' ヲフス。ウビ' シ ロビ' シン' ゴ' エ。ウサ 'ン	キヤビ' ヲフス。ウビ' シ ロビ' シン' ゴ' エ。ウサ 'ン	①大川普濟禪師 語錄 ②張協狀元 ③古尊宿語錄 ④五灯会元 ⑤儒林外史 ⑥西遊記 ⑦隋唐演義			①②③家貧未是貧、路貧愁殺人 ④家貧犹自可、路貧愁殺人 ⑤家貧不足貧、路貧愁殺人 ⑥在家不是貧、路貧愁殺人 ⑦家貧不足貧、路貧愁殺人
38	人不可貌相海水不可斗量 人ハ。面ヲ見テ。善惡ヲ論スベカ ラス。海水ハ。斗ヲ以テ。量ルベ カラズ	ジ' シン' ゴ' マ。ウサ ンハ' イ' ゴ' コ' テ。ウ リヤン	①明心宝鑑 ②西遊記	①省心篇太 公	11.41	①凡人不可貌相、海水不可斗量 ②同じ
39	二虎相闘必傷其一 ルカフカスヤン' テ。ウビ' ヤン' キ' イ	ルカフカスヤン' テ。ウビ' ヤン' キ' イ	斬鬼伝			二虎相闘、必有一傷
40	寡不可敵衆 カア' コ' テ' ヌ	カア' コ' テ' ヌ	①孟子・梁惠王 上 ②韓非子・難三 ③申宗人冤獄書 ④水滸伝 ⑤三國志演義 ⑥東周列國志 ⑦警世通言 ⑧說唐			①寡固不可以敵衆 ②寡不勝衆 ③④⑤⑥⑦⑧寡不敵衆

53	大丈夫一言驢馬難追	ダ、夫、一、言、驢、マ、ナ、ン、追、	大丈夫ノ一言ハ。少シモチガヒナシト云こと	①論語・顔淵 ②鄒衍子・軼辭 ③新五代史・高祖皇后李氏伝 ④佐員吹簫		①夫子之説君子也、驢不及舌 ②一言而非、驢馬不能追；一言而急、驢馬不能及 ③驢馬難追 ④大丈夫一言既出、驢馬難追、豈有翻悔之理
54	積善之家必有余慶	ツ、ゼ、シ、カ、ウ、キ、ヤ、ア、ビ、ユ、カ、イ、レ、キ、ン	善ヲツミシ人ノ家ニハ。必ス餘ンノ慶ヒアリ	明心宝鑑	維善篇 《易》	同じ
55	積不善之家必有余殃	ツ、ゼ、シ、カ、ウ、キ、ヤ、ア、ビ、ユ、カ、イ、レ、キ、ン	不善ヲツミシ人ノ家ニハ。必ス餘ンノ殃ヒアリ	明心宝鑑	維善篇 《易》	同じ
56	画虎画皮難面骨知人知面不知心	ウ、ア、フ、カ、ア、ビ、イ、ナ、ン、ア、フ、カ、ウ、ジ、ン、ウ、カ、シ、カ、ダ、シ、	虎ヲ画クニハ。皮ハ画ケとも。骨ヲ画キカダシ。人ヲ知ルニハ。面ヲ知レとも。心ヲ知ラス	明心宝鑑	省心篇ノ 《新刻前賢 切要明心宝鑑》(1)	同じ
57	人非善不交物非義不取	ジ、ソ、フ、ニ、イ、フ、キ、ヤ、ウ、カ、ウ、ア、イ、ン、ダ、	人ハ義ニアラザレハ交ラズ物ハ義ニアラザレハ取ラズ	明心宝鑑	維善篇康節邵先生	人非善不交、物非義不取
58	謀事在身成事在天	ダ、カ、ウ、ア、イ、ン、ダ、ソ、フ、ニ、イ、ン、	事ヲ謀ルハ身ニ在リ。事ヲ成スハ天ニ在ル	明心宝鑑	天理篇諸葛武侯曰	謀事在人、成事在天
59	大富在天小富在勤	ダ、フ、フ、カ、ダ、フ、ア、イ、ン、サ、ヤ、カ、ウ、ア、イ、ン、	大ニ富ことハ。天ニ在リ。小ニ富ことハ。勤ルニ在リ	明心宝鑑	省心篇	大富由天、小富由勤
60	人間私語天聞若雷暗室虛心・神目如電	ジ、ン、カ、ン、ス、カ、シ、ユ、イ、ン、ウ、エ、ン、ヤ、ル、イ、ン、シ、カ、イ、ス、イ、ン、ジ、ヤ、シ、ユ、イ、ン、	人間ニ。ソ、ヤキコトヲ云フヲハ。天コレヲ聞こと雷ノ如シ。暗室ニテ。ウシロクラキコトヲスルヲハ。神コレヲ見ルこと電の如シ	明心宝鑑	天理篇文帝垂訓	同じ
61	種瓜得瓜種豆得豆	チ、ヨ、ク、カ、ダ、チ、カ、ハ、ア、イ、ン、ダ、。カ、チ、ダ、。ウ、	善事ヲスレハ。善事ガアリ。惡事ヲスレハ。惡事ガアルト云こと	明心宝鑑	天理篇子曰	同じ
62	人可欺天不可欺	ジ、ン、カ、キ、イ、ン、ダ、コ、ウ、キ、	人ヲハ欺クとも。天ハ欺レヌモノナリ	明心宝鑑	天理篇	同じ
63	人可瞞天不可瞞	ジ、ン、カ、ア、フ、シ、ン、ダ、コ、ウ、マ、ア、ン、	人ヲハダマカストモ天ハダマカサレヌ	明心宝鑑	天理篇	同じ

64	萬事不由人計 較都是命安排	ワン' ヲウ' エカジン イキ。ヲウズ' ヲミン アンバイ	凡事ハ。人ノ計ニ由ルニアラズ。 都テ天命ノコシラエル所ナリ	明心宝鑑	順命篇	3.5	万事不由人計較、一生都是命安排
65	臨時無苟得臨 難無苟免	リン' アイウ、ケ。ウ リン' ナンク、ケ。ケ ン	財に臨タリとも。メツタニ。コレ ヲ取ルことナカレ。難ニ臨タリト モメツタニ。コレヲ免ルことナカ レ	明心宝鑑	順命篇《曲 礼》曰	3.10	臨財毋苟得、臨難毋苟免
66	駕馬自受鞭撻 愚人終受毀唾	キヤマ、ヅ' ウジ' ヲ バ' ヲウエ' ヲナヨ ン' ケ' トサ	乗ラレタル馬ハ。自ラ鞭ヲ受ケ。 愚人ハ。終ニ毀ヲ受ケ。	①明心宝鑑 ②直言訣	正己篇《直 言訣》	5.22	①同じ ②駕馬自受鞭撻、愚人終受毀唾
67	恩義廣施人生 何處不相逢響 冤真結路逢險 處難迴避	エンニイ' ハス' カジン ズ' エホ' カエ' イ' ス ヲオン' チ' リエン' セ' 和 ウア' オン' ヒエン' カ' イ' ナ' ヲ ヒ' イ	恩ヲハ廣ク施セ。人ハ何レノ處ニ テ。逢ンモ料リカタシ。冤ヲハ結 ヘカ' ラズ' 冤ヲ結ヒシ上ニテハ。路 ニテ危キことニ逢テ。避ケガタキ ト。云意也	明心宝鑑	繼善篇	1.27	同じ
68	養子方知父母 恩立身方知人 辛苦	ヤウ' ハハ' ヲウ' カ、セウ エン' リシ' ハハ' ヲウ' カ' シ ス' イ' シ' カ	子ヲ持テ後。父母ノ恩ヲ知り。立 身ノ後。人ノ辛苦ヲ知ル	明心宝鑑	孝行篇	4.14	同じ
69	善事雖貪惡事 莫榮	センズ' カ' ス' イ' カ' ナ' ヲ' ス' ヲ ロ	善事ヲハ貪ルトモ。惡事ヲハ榮ム ベカラズ	明心宝鑑	繼善篇太公 (周代呂尚 的称号。即 姜太公。) 曰	1.15	善事須貪、惡事莫榮
70	善以自益惡以 自損	セン、ヲ' カ' イ' ア、ヲ ウ' ナ' ヲ	善ハ自分ノ益ナリ 惡ハ自分ノ損 ナリ	明心宝鑑	繼善篇 顔 子	1.16	同じ
71	與人方便就是 自家方便	イ' エ' ジ' ' ソ' ハ' ベ' ' ヲ' ' ヲ エ' カ' ス' ' カ' ヲ' ' オ' ヲ' ア' ' ハ' ' ヲ ベ' ' ヲ	人ノ為ニ方便ヲスレハ。即チ我為 ノ方便トナルナリ	明心宝鑑	繼善篇	1.36	與人方便、自己方便
72	見善如渴聞惡 如饔	ケン' セ' ヲ' ジ' ' ヲ' イ' カ' エ' ヲ ジ' ' ヲ' ロ' ヲ	善ヲ見ルトキハ。渴スル如クニ シ。惡ヲ聞トキハ。饔ノ如クニセ ヨ	明心宝鑑	繼善篇 太 公	1.17	同じ

73	画餅不充飢	ワ、フカア、ビイ ナカノ、フカカジン ツウメン、ツカシイビ ン、チヨクイ	繪ニカキタル餅ハ。餓ノ助ケニ ハ。ナラヌト云こと	①満庭芳・清浄 家風 ②打馬賦 ③警世通言・王 娇鸾百年長恨		①同じ ②画餅充飢 ③画餅充飢
74	若要有前程莫 作没前程	ジヤ、カエツメチ ネガデ、ツ、エン、ン	若行末ニ。ヨキこと。アランこと ヲ。求メタクハ。行末ニ。ヨキ こと。ナカランヤウノことヲ作こ とナカレ	①西遊記 ②明心宝鑑	1.23	同じ
75	於我善者我亦 善之於我惡者 我亦惡之	エイ、ウ、ソエ、 ゴ、タレ、ソカ、イロ ウ、ハ、ゴ、イ、ツカ	我ニヨクスル者ニハ。我モ亦コレ ニヨクス。我ニアシクスル者ニ ハ。我モ亦コレニアシクス。	明心宝鑑	1.28	于我善者、我亦善之。于我惡者、 我亦善之
76	仁慈者誨凶暴 者亡	ジツ、ウチエ、ジ、ク ヒョウハ、ウチエ、ウ ン	仁慈ナル人ハ壽シ。凶暴ナル人 ハ亡ブ	明心宝鑑	1.31	
77	為子孫作富貴 計者十敗其九 為人行善方便 者其後受惠	タイ、ウ、ソ、アツ、ツカ ク、イ、ウ、イ、ハ、イ、 イ、ウ、イ、ハ、イ、 ソ、ハ、イ、ハ、イ、 ハ、ウ、イ、ウ、イ、	子孫ノ為ニ。富貴ノ計ヲ作ス者 ハ。反テ十ガ九ハ敗レテ取ル。人 ノ為ニ善キ方便ヲ行フ者ハ。必ス 其後惠ヲ受ルコトアリ	①西遊記 明心宝鑑	1.35	
78	禍福無門惟人 自招	ツカ、ウ、モ、ソ、カ、イ 、ソ、イ、ハ、ウ、 ヒ、ソ、ウ、ウ、ジ、 イ、ウ、イ、ハ、イ、 ウ、イ、ハ、イ、 ウ、イ、ハ、イ、	禍福門ナケレドモ人自ラコレを招 クナリ	明心宝鑑	1.40	福禍無門、惟人自招
79	行善之人如春 國之卿不見其 長日有所增 行惡之人如磨 刀之石不見其 損日有所虛亏	ヒ、ソ、ウ、ウ、ジ、 イ、ウ、イ、ハ、イ、 ウ、イ、ハ、イ、 ウ、イ、ハ、イ、 ウ、イ、ハ、イ、	善ヲ行フ人ハ。春ノ國ノ卿ノ如 シ。其長スルことハ見エザレト モ。ノモ 日々増ス所アリ。惡ヲ 行フ人ハ。刀ヲ磨ノ石ノ如シ。其 損スルことハ見エザレトモ。日々 虚亏ル所アリ	①明心宝鑑 ②東岳大帝宝訓	1.41	同じ
80	不教而善非聖 而何教而後善 非賢而何教而 不善非愚而何	グ、キ、ウ、イ、ハ、 イ、ソ、ウ、ウ、ジ、 ウ、イ、ハ、イ、 ウ、イ、ハ、イ、 ウ、イ、ハ、イ、	教エスソ。善ナル者ハ。聖ナラン 力。教エテ後。善ナル者ハ賢ナラ ン力。教エテモ。不善ナル者ハ。 愚ナラン力	①明心宝鑑 ②西遊記	1.43	①同じ ②教亦不善

81	寡言則省言 寡慾則保身	カハツカシエンバン カハツカシ。カシ	言語寡ケレハ。言簡ヲ省ク。色慾寡ケレハ。身ヲ保ツ	明心宝鑑	正己篇《景行録》	5.27	同じ
82	貪心害己・利口傷身	タンスインハキ、リイ ケ。カヤシシ	貪心ナル者ハ。己ヲ害シ。利口ナル者ハ。身ヲ傷フ	明心宝鑑	正己篇太公	5.64	同じ
83	慾多傷身財多累身	ヨトシヤシシツアイト カシ	色慾多ケレハ。身ヲ累ハスケレハ。身ヲ累ハス	明心宝鑑	正己篇老子	5.31	同じ
84	酒中不語真君子財上分明大丈夫	ツコチヤン、イェイ キヤツカガ、アジヤ フンミダ、ア、チヤ ン	如何ヤウノことタリとも。酒ノ座ニテ。云ハサルハ。真君子ナリ。金銀財宝ノことヲ。分明ニイタスハ。大丈夫ナリ	明心宝鑑	正己篇	5.73	同じ
85	成人不自在 在不成人	ヂ、ツジ、ツ、カガ アイ、ツ、ア、イ、チ ン	人ト成ル者ハ。自在ナラズ。自在ナレハ。人ト成ラズ	①明心宝鑑 ②鶴林玉露	正己篇《新刻前賢切要明心宝鑑》(2)	5.81	同じ
86	自見者不明 是者不彰	ツ、カガシ、ア、ミ ツ、カガシ、ア、チ ン	自己ノ見ヲ以テ。決断スルことハ。明カナラズ。自己ノ了簡ヲ以テ。是トスルことハ。彰レス	明心宝鑑	正己篇 老子	5.83	同じ
87	含血噴人先汚 自口	アルエバ、エジ、ノミ シ、ツ、カガ。リ	人ノことヲ。ワルク云フ時ハ。先ツ 我身ノことヲ。云カブルト云意	①明心宝鑑 ②羅湖野録	①正己篇太公曰 ②卷二	5.85	①同じ ②含血噴人、先汚其口
88	良農不為水旱 不耕良賈不為 折閱不市	リヤノゾ、チヌシ、ア ツ、ケンリヤカガ、ア イ、エツ、ス、リ	ヨキ農人ハ。水損日損アリト云へとも。不耕ト云ことナシ。ヨキ商人ハ。損失損亡アリト云へと。不商ト云ことナシ	明心宝鑑	正己篇 荀子	5.90	同じ
89	一行有失百行 俱傾	ヒシヤカシバ、ヒンキ イ	一色ヲ。シソコナエハ。種種ノことガ。ワルクナルト云こと	①明心宝鑑 ②少年進徳録	①正己篇太公曰	5.104	同じ
90	借人典籍皆須 愛護凡有決壞 就即補治	ツジ、ツ、シヤシキヤ シ、ア、イ、ウ、ノミ エ、イ、イ、エ、カガ シ、リ	人ノ書籍ヲ借ラハ。大切ニイタセ。若壊フことアラハ。早速修クセヨ	①明心宝鑑 ②顔氏家訓	①正己篇《顔氏家訓》	5.116	借人典籍、不可損壞而不還、皆須愛護、凡有缺壞就為補治、此亦士大夫百行之一也。
91	知足可樂 則憂	ツカチコカト、カガ シ、イ	足ルことヲ知レハ樂ミアリ。貪り多ケレハ憂ヒアリ	明心宝鑑	安分篇《景行録》	6.1	同じ

92	若要 做快活 必須大事化小 事小事化沒事	ジヤ、ウツ、カ イハ、エ、タ、 ズ、カ、ア、ズ、 カ、ア、ズ、カ、 ア、ズ、カ、ア、 ズ、カ、ア、	若タノシミミタク思ハ。大事ヲハ変 ヨ。小事トナシ。小事ヲハ変ヨ。 無事トナセ	明心宝鑑	存心篇	7.80	会做快活人、大事化小事。会做 快活人、小事化沒事
93	柔弱護身之由 剛強惹禍之由	ジヤ、ヤ、ジヤ ベ、エ、カ、ヤ、 ベ、エ、カ、ヤ、 ベ、エ、カ、ヤ、	柔弱ハ。身ヲ保チ護ルノ本也。剛 強ハ。禍ヲ惹キ出スノ本也	明心宝鑑	存心篇	7.83	同じ
94	各人自掃門前 雪休管他人屋 上霜	コジヤ、カ、カ ン、エ、カ、ヤ、 ン、エ、カ、ヤ、 ン、エ、カ、ヤ、	面々自分ノ事ヲ。カセイテ。他人 ノことヲ。カマフナト云こと	明心宝鑑	存心篇	7.47	各人自掃門前雪、莫管他人屋上 霜
95	推賢舉能面無 慙色	トヒエン、ユイ ウ、ヅ、アン、 ウ、ヅ、アン、 ウ、ヅ、アン、	賢ヲ進メ能ヲ舉テハ。面二慙ル色 ナシ	明心宝鑑	存心篇	7.52/ 7.49	推賢舉能、掩惡揚善 心不負人、面無慙色
96	長短家家有炎 涼處處同	ヂ、ヤ、ン、カ、 ヤ、ン、カ、ヤ、 ヤ、ン、カ、ヤ、 ヤ、ン、カ、ヤ、	誰カ家ニモナガヒノ。ミシカヒ ノ。アツヒノ。サムヒノト。云こ とアリ	①明心宝鑑 ②明・李如一 不明	戒性篇	8.6	同じ
97	至樂莫如讀書 至要莫如教子	ツカモシ、ユイ、 ツカモシ、ユイ、 ツカモシ、ユイ、 ツカモシ、ユイ、	至極楽シマシキハ。書ヲ讀ニ如ク ハナシ。至極勸要ノことハ。子ニ 教ルニ如クハナシ	明心宝鑑	訓子篇	10.7	同じ
98	不登山不知天 之高也不臨谿 不知地之厚也	ブ、テン、サ、 ブ、テン、サ、 ブ、テン、サ、 ブ、テン、サ、	事ニハアタツテ見ズハ知ラヌト云 こと	明心宝鑑	省心篇 荀子	11.15	不登高山、不知天之高也；不臨 深溪、不知地之厚也
99	飽暖思淫慾 饑寒起盜心	ハ、カン、サ、 ハ、カン、サ、 ハ、カン、サ、 ハ、カン、サ、	飽暖ナル者ハ。淫慾ヲ思フ。飢 寒タル者ハ。恣心ヲ起ス	明心宝鑑	省心篇	11.49	同じ
100	長思貧難色困 自然不驕 思疾病熬煎並 無愁悶	ヂ、ヤ、ン、カ、 ヤ、ン、カ、ヤ、 ヤ、ン、カ、ヤ、 ヤ、ン、カ、ヤ、	長ク貧キ時ノ事ヲ思ヘハ。自ラ驕 ルことナシ。常ニ病フ時ノ事ヲ思 ヘハ。曾テ愁フことナシ	明心宝鑑	省心篇	11.50	同じ

110	在家不 _レ 會迎賓 客出外方知少 主人	ツ' アキヤア' ヲ(ニ ビ' ゴ' チェアハ' ヲ ヤ。チエイ' シ	宿二在ルトキ。賓客ヲ迎ルこと ヲ。ナサザル者ハ。外二出テ。 初テ亭主トナル人ノ。少キことヲ 知ル	明心宝鑑	省心篇	11.96	同じ
111	貧居闇市無人 識富在深山有 遠親	ヒ' ソ' ナ。ガ' ヲ' カ、 ジ' ヲ' ナ' ヲ' ア' シ' ヲ ヤ' ヲ' カ' シ' ヲ' ナ' ヲ	貧キ人ハ。闇ナル町ノ中二居スレ とも。コレヲ知ル者ナン。富ル 人ハ。深山ノ内二在レとも。遠ク ヨリ親ム者アリ	明心宝鑑	省心篇	11.98	同じ
112	寧塞無 _レ 底坑 塞鼻下橫	ニ' ス' エ' ヲ' ナ' ヲ' ナ' ヲ シ' ヲ' ナ' ヲ' ナ' ヲ' ナ' ヲ	イツソ底ノナキ坑ハ塞クとも。鼻 下横ハハ。塞カレヌ	明心宝鑑	省心篇《景 行録》	11.102	同じ
113	天不生無 _レ 根 人地不生無 _レ 根 之 _レ 艸	テン' プ' ズ' エ' ヲ' ナ' ヲ' ナ' ヲ ウ' ジ' ナ' ヲ' ナ' ヲ' ナ' ヲ	天ハ縁ナキ人ヲ生セセス。地ハ根 ナキ艸ヲ生セセス	明心宝鑑	省心篇	11.128	同じ
114	成家之 _レ 兒惜 _レ 養 如 _レ 金敗家之子 用 _レ 金如 _レ 養	ヂ' ヲ' ナ' ヲ' ナ' ヲ' ナ' ヲ' ナ' ヲ シ' ヲ' ナ' ヲ' ナ' ヲ' ナ' ヲ	家ヲ成ス子ハ。養ヲ惜こと金ノ如 ク。家ヲ敗ル子ハ。金ヲ用こと 養ノ如シ	明心宝鑑	省心篇	11.132	同じ
115	起人不 _レ 要 _レ 趕上 捉 _レ 賊不如 _レ 趕賊	カン' ジ' ナ' ヲ' ナ' ヲ' ナ' ヲ シ' ヲ' ナ' ヲ' ナ' ヲ' ナ' ヲ	人ヲ起ハ。趕上ヘカラス。賊ヲ捉 フハ。賊ヲ起フニ。如ス此語ハ。 縦ヒ理アルことタリとも。十分二 勝チヲ取ルナト云こと也	明心宝鑑	省心篇	11.136	同じ
116	豪家未必長富 貧家未必長 寂寞	ア' ヲ' ナ' ヲ' ナ' ヲ' ナ' ヲ' ナ' ヲ シ' ヲ' ナ' ヲ' ナ' ヲ' ナ' ヲ	大家タリとも。必ス長ク富貴ナル ことハアアルマジ。貧家タリとも。 必ス長ク寂寞ナルことハアアルマジ	明心宝鑑	省心篇	11.142	同じ
117	遠非 _レ 道之 _レ 財 過度之 _レ 酒	エン' フ' イ' ヲ' ナ' ヲ' ナ' ヲ シ' ヲ' ナ' ヲ' ナ' ヲ' ナ' ヲ	非道ノ財ヲ。遠ザケ。過度ノ酒 ヲ。戒ムヘシ	明心宝鑑	省心篇神宗 皇帝御制	11.150	同じ
118	心行慈 _レ 善何須 努力看 _レ 經。意 欲 _レ 損人空 _レ 讀如 來一 _レ 藏	ス' イ' ヒ' シ' ヲ' ナ' ヲ' ナ' ヲ シ' ヲ' ナ' ヲ' ナ' ヲ' ナ' ヲ	心二慈悲ヲ行ハ。勤メテ經ヲ看ル 二及ハス。意二人ヲ損ササント欲 セハ。如來ノ一藏ヲ讀とも。空シ キことトナルヘシ	①明心宝鑑 ②西遊記	①省心篇 仁宗皇帝御 制 ②	11.149	同じ

119	居必擇鄰交必 擇友	キエビ ^ビ ヴ ^ビ エリヤ。 カ ^カ ヴ ^カ ユウ	居セハ必ス隣リヲ擇ブヘシ。交ハ 必ス友ヲ擇ブヘシ	①明心宝鑑 ②晏子春秋・杂 上 ③歡喜冤家	①省心篇 神宗皇帝御 制 ② ③第十九回	11.150	①同じ ②君子居必擇邻、游必就士 ③居必擇邻交択友
120	骨肉貧者莫疎 他人富者莫厚	クツ ^{クツ} ヲビ ^カ ヴ ^カ エ、モ ツウ ^カ ア、ジ ^カ ア ^カ エ 、モ、カ	親類ナラハ。貧シキ者タリとも。 疎ンスルことナカレ。他人ナラハ 富メル者タリとも。厚クスルこと ナカレ	明心宝鑑	省心篇神宗 皇帝御制	11.150	同じ
121	身披一織常思 織女之勞日食 三餐每念農夫 之苦	シベ ^カ イリユイ ^カ ヤ スク ^カ ヌイ ^カ ヲウ。ウ シ ^カ ヤサ ^カ ヲミ ^カ イ ン ^カ ナ ^カ カ ^カ カ	身三件ノ衣ヲ着ハ。常ニ織女ノ勞 ヲ思フヘシ。日ニ三度ノ飯ヲ喫 セハ。毎ニ農夫の苦ミヲ念フヘシ	①明心宝鑑 ②唐太宗百字箴 言	①省心篇高 宗皇帝御制 ②	11.151	①日食三餐 ②日食三餐、当思農夫之苦、身 穿一縷、每念織女之勞
122	水至清則無魚 人至察則無徒	スイ ^カ ヲツイン ^カ ヲエ、イ ユイ ^カ ヲツカ ^カ ヲ ド ^カ ケ	水至テ清メハ魚ナシ。人至テ察カ ナレハ徒ナシ	明心宝鑑	省心篇《家 語》云	11.155	同じ
123	家貧顯孝子世 亂識忠臣	キヤ ^カ ビ ^カ シヘヒヤ。 ウツ ^カ シイロハ ^カ シヨ ^カ ナ ン	家貧フゾ。孝子ヲ顯ス。世亂レ テ。忠臣ヲ識ル	明心宝鑑	省心篇	11.154	同じ
124	輕諾者信必寡 面譽者背必非	キン ^カ ナエ、スイ ^カ ビ ^カ ク ハ ^カ メ ^カ ヒイ ^カ エ、ホ ビ ^カ フイ	輕ク諾合者ハ。必ス信ト寡シ。面 ノ前ニテ譽ル者ハ。必ス背ニテ非 ル	明心宝鑑	省心篇	11.166	同じ
125	春雨如膏行人 惡其泥濘秋月 揚輝盜者憎其 照鑑	チュン ^カ ハイ ^カ ヲ ウ ^カ ヒ ^カ シ ^カ ヲ、キ ^カ ニ イ ^カ ツ ^カ フ ^カ イ ^カ イ ^カ ヲ ウ ^カ チ、ウ ^カ エ ^カ ギ ^カ イ ^カ ヤ、ウ ^カ ヲ	春ノ雨ハ膏ノ如クニシテ。田地 ノ為メニモ好ケレドモ。路ヲ行ク 人ハ。地上ノ泥濘ヲ惡ム。秋月ハ 輝リヲ揚テ。旣賞ノ為メニモ佳 ケレドモ。盜ヲ作ル者ハ。遍處ヲ 照鑑ヲ憎ム。凡ソ世間ノ事。平 均ニハ。ナリガタシト云意	明心宝鑑	省心篇許敬 宗	11.167	春雨如膏、滋長万物、行人惡其 泥濘。秋月如鑑（揚輝）、普照万 方、佳人喜其玩賞、盜者惡其照 鑑

135	清貧常樂濁富多憂	ツイビ'ンヂ'ヤンヂ' ヨウフコウ	清ク貧キ人ハ。常ニ樂ム。濁リ富ム者ハ。憂ヒ多シ	明心宝鑑	省心篇《周礼》	11.237	同じ
136	無故而得千金不有大福必有大禍	ウ、カルクエニキ ア'ウガ'ア、フビ' ヨウダ'、カ	何ノ故モナクメ。不圖千金ヲ得ハ。大福ハアラスメ。必ス大禍アラン	明心宝鑑	省心篇蘇東坡云	11.187	同じ
137	德微而位尊智小而謀大無禍者鮮矣	テウルクイ'ヤンカウス'ヤ、カルクメ。ウ'ア'イ'、ウ'カ'ヒ、ス'エ'シ、	徳微ニメ。位尊ク。智小ニメ。謀大ヒナル如キノ者ハ。禍ヒナキコト鮮シ	明心宝鑑	省心篇《易》	11.209	同じ
138	金玉者飢不可食寒不可衣自古以殺帛為貴也	キンゴ'ヒ、キ'フ'コウ'ジ'ハ'ナン'コウ'イ、ツ'イ'ウ'カ'イ、ゴ'バ'ヨ'ク'ヒ、	金玉ハ宝タリト云へとも。飢タル時。食こと能ハス。寒エタル時。衣ルこと能ハス。是故二古ヘヨリ。米穀錦帛ヲ。貴シトスル也	明心宝鑑	省心篇《漢書》	11.225	同じ
139	貧窮患難親戚相救婚姻死喪隣保相助	ヒン'ギ'ヨウ'カ'ナツ'イ'ツ'エ'ス'ヤン'キョ'フ'ナン'ス'カ'リン'ハ'。カ'サ'ツ'ツ'ヲ、	貧窮患難ノことハ。親類共。コレヲ相救フ。 婚礼葬喪ノことハ。隣家共。コレヲ相助ク	①明心宝鑑 ②増広賢文	①立教篇 古靈陳先生為仙居令、教其民曰	12.7	同じ
140	癡人畏婦賢女敬夫	ウ'ク'ジ'シ'ヤ'イ、ヒ'エン'ニ'ユ'イ'キ'ヲ'ウ	癡人ハ。妻ヲ畏レ。 賢女ハ。夫ヲ敬フ	明心宝鑑	治家篇太公曰	14.7	痴人畏婦、賢婦敬夫
141	婦妾而論財夷虜之道也	ホ'ツ'ツ'ユ'イ'ル'ホ'ツ'ツ'ア'イ、ロ'ウ'ツ'ク'ダ'。ウ、	婚礼ヲスルニ。財宝ノコトヲ論スルハ。夷ノ道ナリ	明心宝鑑	治家篇文中子曰	14.15	同じ
142	兄弟為手足夫婦如衣服衣服破時更得新手足斷時難在續	ヒ'ヨ'デ'イ'ヤン'カ'ウ'ツ'ウ、ジ'ユ'イ、フ'フ'イ、フ'ホ'ウ'ダ'、ウ'ダ'テ'ス'イン'カ'ウ'ツ'ホ'ス'カ'ン'ダ'イ'ヲ	兄弟ヲ手足トシ。夫婦ハ衣服ノ如シ。衣服破ル時ハ。新ラシキニ更ムヘシ。手足断ル時ハ。再ヒ續キガタシ	明心宝鑑	安義篇庄子云	15.3	同じ

日本語訳は便宜上(子)は(ず)に、(7)は(こと)に、(7E)は(とも)に変えた。

各「順」欄の冒頭の「1〜15」は、1「継善篇」、2「天理篇」、3「順命篇」、4「孝行篇」、5「正己篇」、6「安分篇」、7「存心篇」、8「戒性篇」、9「勸学篇」、10「訓子篇」が、また下巻には11「省心篇」、12「立教篇」、13「治政篇」、14「治家篇」、15「安義篇」の各篇を表している。便宜上付した。

(作成者 取蘭)

「表1」を概観して二つの大きな特徴が明らかになった。一つは、142条で構成される「常言」の出典の内、第54条（「常言」には順序の番号は記していないが、ここでは便宜上、番号を記した）以降は3箇条を除いてすべて『明心宝鑑』であるということである。二つ目は第1条から第53条までは『明心宝鑑』を含めて数多くの「白話小説」を中心とした書籍の可能性が考えられるということである。

3-1. 「白話小説」等

第1条から第53条までの出典の中でも特に注目に値するのは所謂「白話小説」と言われる『水滸伝』（19箇所）、『西遊記』（6箇所）、『三国志演義』（6箇所）、「三言二拍」（三言＝『古今小説』・『喻世明言』、『警世通言』、『醒世恒言』、二拍『初刻拍案驚奇』、『二刻拍案驚奇』）（12箇所）、『儒林外史』（2箇所）、『紅樓夢』（1箇所）からの引用（重なる場合もある）が多いことである。

これら以外にも、『五灯会元』（仏教禅宗史書、4箇所）、『景德伝灯録』（禅宗灯史、2箇所）、『増文賢文』（児童啓蒙書、2箇所）、『論語』（2箇所）、『孟子』（1箇所）、『左伝』（1箇所）からの引用（重なる場合もある）が見られる。

冠山は極めて多くの書籍に触れていたことが分かるが、これは唐通事の学習過程とも関連がある。唐通事はまず、発音を学ぶために、唐音で『三字経』『大学』『論語』『孟子』『詩経』等を読み、それから「恭喜」「多謝」「請坐」などの二字話の句、さらに「好得緊」「不晓得」「吃茶去」などの三字話の句と四字以上の句を学ぶ。そのための教科書が、前述の通事本『長短拾話唐話』『訳家必備』『養兒子』等である。さらに、先生と一緒に『今古奇観』（「三言」の選集）『三国志』『水滸伝』『西遊記』などの白話小説を読み、その次には、『福恵全書』『資治新書』『紅樓夢』『金瓶梅』などの自習が求めら

れた。⁽¹⁰⁾なお『水滸伝』からの引用が最も多い背景には、冠山が同小説の翻訳をすでに準備しつつあったことが考えられる。

第1条から第53条までの出典に関して言うと、「表1」に掲げた書籍以外にもその他書籍の可能性は十分にあると考えられる。今後の課題の一つである。

3-2. 『明心宝鑑』

『明心宝鑑』(1368)は中国明代の勸善書の一つで、儒教道徳を中心とした、儒教・道教・仏教の三教合一思想が書かれている。条目の数で見ると儒教・道教・仏教の順で多い。また『明心宝鑑』は、『論語』、『孟子』、『莊子』、朱子や史書その他から選んだ、勸善、勸学、勤勉、孝行、婦徳の勧めなど人生論や処世論を多く収集している。

日本における『明心宝鑑』の伝来ルートは、室町時代(1336-1573)に五山僧を通して中国からもたらされたものと、安土桃山時代(1568-1603)の文禄・慶長の役の折に、朝鮮から輸入されたものとの2通りがあると言われる。⁽¹¹⁾しかし、日本における『明心宝鑑』の本格的な受容は江戸時代である。そのことは、寛永以降(1624-)『明心宝鑑』が約80年間、版を重ねたことと、江戸時代の著名な儒学者である藤原慢窩や林羅山をはじめ、儒学者・僧侶・国学者・神道家・戯作者などの知識人たちに。広く『明心宝鑑』が読まれた⁽¹²⁾実態を把握することによって明らかにされている。

『明心宝鑑』は上下2巻からなっている。具体的には上巻には、「継善篇」、「天理篇」、「順命篇」、「孝行篇」、「正己篇」、「安分篇」、「存心篇」、「戒性篇」、「勸学篇」、「訓子篇」が、また下巻には「省心篇」、「立教篇」、「治政篇」、「治家篇」、「安義篇」、「遵礼篇」、「存信篇」、「言語篇」、「交友篇」、「婦行篇」がある。

「常言」の第54条から最後の第142条までの3箇条(第73条、第106条、

第130条)を除いて、残りの86箇条は全て『明心宝鑑』から収集されたものである。収載された順に並べてみると、継善篇(2箇条続けて)、省心篇(1箇条、以下括弧のないものは全て1箇条)、継善篇、天理篇、省心篇、天理篇(4箇条続けて)、順命篇(2箇条続けて)、正己篇、継善篇、孝行篇、継善篇(12箇条続けて)、正己篇(10箇条続けて)、安分篇、存心篇(4箇条続けて)、戒性篇、訓子篇、省心篇(41箇条続けて)、立教篇、治家篇(2箇条続けて)、安義篇となっており、省心篇の計43箇条、継善篇の計17箇条、正己篇の計11箇条が際立って多いことがわかる。しかも収載については基本的には上巻、下巻の各篇の順に沿い、更に条目もそれぞれ小さい順から並べられており、冠山は『明心宝鑑』にかなり精通していたと考えられる。

『唐話纂要』に収載された条目数 / 『明心宝鑑』の条目数

上巻	解釈	条目数	回数順	下巻	解釈	条目数	回数順
継善篇	善を継続する。	17/46	②	省心篇	内心で自省する。	43/251	①
天理篇	天道、自然の法則。	5/19	④	立教篇	教化を立てる。	1/17	⑧
順命篇	天命や命令を順ずる。	2/16	⑦	治政篇	政務治める。	×	
孝行篇	親孝行をする。	1/19	⑧	治家篇	一家を治める。	2/16	⑦
正己篇	自分の思想や言行を正す。	11/119	③	安義篇	道義を持って生きる。	1/5	⑧
安分篇	規律を守り、忠実かつ正直でおとなしい。	1/11	⑧	遵礼篇	礼儀を遵う。	×	
存心篇	心に抱える。	⁴ (5)/83	⑤	存信篇	信義を堅持する。	×	
戒性篇	心の欲張りを戒める。	1/14	⑦	言語篇	話すこと。	×	
勸学篇	勉強を激励する。	×		交友篇	交友すること。	×	
訓子篇	子を説教する。	1/20	⑧	婦行篇	女性の言行徳など。	×	
*《新刻前賢切要明心宝鑑》(1)		3 (1)	⑥	《新刻前賢切要明心宝鑑》(2)		2 (1)	⑦

(*)は、1585年万歴皇帝によって編集された『明心宝鑑』上下二巻の最後に付けられたもの。

(作成者 耿山)

以上から「常言」の出現順に関して考えられることは、第1条～第53条は、冠山がそれまで読んだことのある書籍、特に白話小説、その中でも特に『水滸伝』を中心に選び収載し、その際、文字数の少ないものを優先し、第

54条～第142条は、それまでの内容を整理する目的で、勸善書『明心宝鑑』の篇の順に沿って、冠山の関心度の高いものから順に選んで収載したということである。第54条～第142条の条目は、第1条～第53条のものと比べると文字数が多くなっている。次第にレベルを上げていくというように、学習者に配慮したものであろうか。

4. 「常言」に見る人生訓、処世訓

4-1. 『水滸伝』の視点から

冠山が「水滸伝」19箇所（内1箇所は「明心宝鑑」と重なる）から学んだものを「人生訓」「処世訓」「人の世の道理」の視点から概観すると以下の言うことができる。

「人生訓」的な内容として、「2. 欲要生富貴須下死工夫（フウキニナラント思ハ、ズイブン工夫ヲイタスベシ）」であるとか、また「処世訓」的な内容として、

「3. 把官路當人情（シフトノ物デ。アイムコ。モテナスト云フこと）」、「22. 單絲難線孤掌不鳴（獨リニテハ。何事モ成就シガタシト云こと）」、「23. 如漆似膠（中ノヨヒこと）」「27. 不怕官只怕管（公儀ハコハクナクシテ。支配スル人ガ。コハイト云こと）」、「30. 有錢可以通神（錢サエアレハ。神通モナル）」、「32. 遠親不如近鄰（遠キ親ルイハ。近キ他人ニ如ス）（「明心宝鑑」）」等があげられる。

また「人の世の道理」的な内容として、「15. 好事不出門・悪事傳千里（ヨキことハ。門ヨリ外ニ聞エスシテ。アシキことハ。千里ノ外ニ聞ユ）」、「18. 好漢惜好漢猩猩惜猩猩（豪傑ハ。豪傑ヲオシミ。猩猩ハ。猩猩ヲオシム）」、「19. 物悲其類（物ハ己カ類ヲ悲ム）」、「20. 兎死狐悲（頗ル上下同意）」、「40. 寡不可敵衆（小勢ハ大勢ニ敵スベカラズ）」、「46. 有縁千里易相

逢無縁對面難相見（縁アレハ。千里ヲ隔テモ。逢ヒ易ク。縁ナケレハ。向エ二居テモ。逢ヒガタシ）」等が見られる。

4-2. 『明心宝鑑』の視点から

ここでは収載の多い順に、冠山が如何なる教訓に注目していたのかを概略的に述べる。

4-2-1. 「省心篇」（44箇条）

・遠くの親類より近くの他人のほうが大切であるが（32. 「遠親不如近鄰」）、親類は助け合わねばならないし（120. 「骨肉貧者莫疎他人富者莫厚」）、良き他人は選ばねばならない（119. 「必擇鄰交必擇友」）。また選ぶ際に、軽く請け負う者や人前で褒める者には気をつけなければならない（124. 「輕諾者信必寡面譽者背必非」）。

・他人をその人の顔を見て、その人の善悪を判断してはならないが（38. 「人不可貌相海水不可斗量」）、人の心を知ることは難しい（56. 「画虎画皮難画骨知人知面不知心」、128. 「經日之事猶恐未真 背後之言豈足深信」）。

・人は貧すれば鈍する故に、勤勉に働き人並みの富を得るように生まれてきたが（103. 「人貧智短 福至心靈」、59. 「大富在天小富在勤」、113. 「天生無祿之人地不生無根之艸」）、時として不測の出来事に遭遇することがある（129. 「天有不測之風人有不測之禍」）。

・衣食が足りると淫らな欲が出て来、また財宝が多いと志を損ないがちなので（99. 「飽煖思淫慾饑寒起盜心」、102. 「賢人多財損其志・愚人多財益其愚」）、そうならないように貧困の時のことを、忘れないようにしなければならない（100. 「長思貧難危困自然不驕 每思疾病熬煎並無愁悶」）。

・何事も特に利益と関わる際には、一人で行わないようにすべきであるが、多くの人で謀ると漏れてしまう（108. 「小船不堪重載溪徑不宜獨行」、

109. 「利可共而不可獨 謀可獨而不可衆 獨利則敗 衆謀則泄」。

・福や勢いは大切にし、節約しなければ、富貴は長くは続かない (105. 「有福莫享盡 福盡身貧窮 有勢莫使盡勢盡冤相逢」 114. 「成家之兒惜糞如金 敗家之子用金如糞」 116. 「豪家未必長富貴 貧家未必長寂寞」)。

・人は酒に酔いやすいので (131. 「酒不醉人人自醉 色不迷人自迷」)、過度の酒を慎まなければならない (117. 「遠非道之財 戒過度之酒」)。

・慈悲の心は大切であるので (118. 心行慈善何須努力 看經 意欲損人空讀如來一藏)、それを更に進める為に、衣を着る際には布を織ってくれた人のことを、また食事をする時は農夫の苦しみに思いを致さなければならない (121. 「身披一縷常思織女之勞 日食三食每念農夫之苦」)。

・孝子や忠臣は得がたいが (123. 「家貧顯孝子 世亂識忠臣」)、孝子や忠臣の家の繁栄や国の興隆にとって大切な存在である (132. 「國之將興實在諫臣 家之將榮必有言爭子」)。

・丈夫、君子、清廉潔白な人間を目指すべきであるが (126. 「凡大丈夫重名節於泰山 輕死生於鴻毛」、134. 「白玉投於淤泥不能汚濕其色 君子行於濁地不能染亂其心」、135. 「清貧常樂濁富多憂」)、同じ事柄でも人によって受け止め方は平均していないので (125. 「春雨如膏 行人惡其泥濘 秋月揚輝 盜者憎其照鑑」)、他人に対してはあまり厳しく接しないほうがよい (122. 「水至清則無魚 人至察則無徒」)、あまり追い込まないほうがよい (115. 「趕人不要趕上 捉賊不如趕賊」)。

4-2-2. 「繼善篇」(16箇条)

・善を積むことによって、一家にも個人にも益が巡って来るし、長寿も得ることができるので (54. 「積善之家必有餘慶」、70. 「善以自益 惡以自損」 76. 「仁慈者壽 凶暴者亡」)、善いことは望んで積極的に行うべきである (69. 「善事雖貧 惡事莫樂」、72. 「見善如渴 聞惡如聾」)。

・人の為に善や恩を施すことにより、自らが善や施しを受けることができる（67.「恩義廣施人生何處不相逢讐冤莫結路逢險處難迴避」、71.「與人方便就是自家方便」、77.「為子孫作富貴計者十敗其九為人行善方便者其後受惠」）。従って、自身に善くしてくれる者には、善くしてあげなければならない（75.「於我善者我亦善之於我惡者我亦惡之」）。

4-2-3. 「正己篇」（11箇条）

・志ある者は少しの挫折で、自身の目標を諦めてはいけない。努力しなければならない。（88.「良農不為水旱不耕良賈不為折閱不市」、85. 成人不自在自在不成人）。

・色欲や財宝に対する貪心は、身を滅ぼすので、それらを克服するために小欲を保ち、丈夫を目指さなければならない（82.「貪心害己・利口傷身」、83.「慾多傷身財多累身」、81.「寡言則省言 寡慾則保身」、84.「酒中不語真君子財上分明大丈夫」）。

・人の悪口を言わない、人から借りた物は大切にし、もし壊したらすぐに直さねばならない（87.「含血噴人先汚自口」、90.「借人典籍皆須愛護凡有決壞就即補治」）。

・一つ間違いを犯すとその後もその傾向が続くので、自己の見解に固執してはいけない（89.「一行有失百行俱傾」、86.「自見者不明自是者不彰」）。

4-2-4.

①「天理篇」（5 箇条）

・天は騙すことも欺くこともできない絶対的なもので、何事も天によって始めて成就することができ、天のお陰で、善いことをすれば善い報いがあり、悪いことをすれば悪い報いがある（62.「人可欺天不可欺」、63.「人可瞞天不可瞞」、58.「謀事在身成事在天」、61.「種瓜得瓜種豆得豆」）。

②「存心篇」(4箇条)

・立身出世を望むなら人当たり好くして、事を荒立てないようにしなければならない。そして賢者や才能ある人間を目指さなければならない(93.「柔弱護身之本剛強惹禍之由」、92.「若要做快活 必須大事化小事小事化沒事」、95.「推賢舉能面無慙色」)。

③「順命篇」(2箇条)

・全て天命によってなされた結果であるので、一喜一憂してはいけない(64.「萬事不由人計較都是命安排」、65.「臨財無苟得臨難無苟免」)。

④「治家篇」(2箇条)

・愚かな夫は妻を恐れ、貞淑な妻は夫を尊敬する(140.「癡人畏婦賢女敬夫」)。

⑤「孝行篇」(1箇条)

・自分の子供を持って初めて、親の恩を知る(68.「養子方知父母恩立身方知人辛苦」)。

⑥「安分篇」(1箇条)

・知足が善い生き方である(91.「知足可樂多貪則憂」)。

⑦「戒性篇」(1箇条)

・どの家にもそれぞれ悩みを抱えている(96.「短家家有炎涼處處同」)。

⑧「訓子篇」(1箇条)

・自己を教化し、他者を教化することは最大の喜びである(97.「至樂莫如讀書至要莫如教子」)。

⑨「立教篇」(1箇条)

・貧困や困難な時は親戚が助け合い、婚礼や葬式は近隣が助け合う(139.「貧窮患難親戚相救婚姻死喪隣保相助」)。この内容は「省心」の中でも取り上げていて、冠山は人間相互の助け合いを重視していた。

⑩「安義篇」（1箇条）

・兄弟は特に助け合いをしなければならない（142.「兄弟為手足夫婦如衣服衣服破時更得新手足斷時難在續」）。

5. むすびに

「常言」は唐通事であった冠山が通事本から影響を受けて、それまで身につけた人生訓や处世訓が収載されているということが出来る。そして冠山が特に注目していた内容は、収載の多かった『明心宝鑑』の「省心」「継善」「正己」であった。勧善懲惡の天の理に従い、己の心を省みそして正すことに努力するという内容である。

「常言」の第1条から第53条は、冠山がそれまで触れた書籍、特に『水滸伝』を中心とした白話小説からの人生訓や处世訓に関する引用が多い。これは唐通事教育課程と密接な関係があるということが出来る。第54条から最後の第142条までは3箇条を除いて全て『明心宝鑑』からの引用である。『明心宝鑑』の上下巻の各「篇」に沿って冠山が注目した条目が選ばれ、かつ各「篇」の順番に従って収載されている。第1条から第53条までの内容を、『明心宝鑑』を使って整理しようと考えたのかも知れない。収載の手順等から考えると、冠山はかなり『明心宝鑑』に精通していたと言える。ただ、冠山に関するこれまでの資料からすると、『明心宝鑑』とどのような出会いがあったのかは不明である。今後の課題としたい。

注

- (1) 若木太一「唐話辞書・東京語辞書・朝鮮語辞書」『辞書遊歩——長崎で辞書を読む』九州大学出版会2004. 7 pp.3-12、太田哲郎「江戸中期 唐話を導いた岡嶋冠山」『長崎歴史協短信』325号平成21年8月20日、神林裕子「江

- 江戸時代における中国近世語の受容」『中国研究集刊』(19) 大阪大学1997. 1 p102
- (2) 岡田袈裟男「岡島冠山における唐話学の方法 — 改めて冠山学を考える」『江戸異言語接触』笠間書院2009. 9 pp227-242
- (3) 若木太一「唐話辞書・東京語辞書・朝鮮語辞書」前掲 pp3-12
- (4) 神林裕子「江戸時代における中国近世語の受容」前掲 p97
- (5) 神林裕子「江戸時代における中国近世語の受容」前掲 p98
- (6) 神林裕子「江戸時代における中国近世語の受容」前掲 p104
- (7) 中村春作『東アジア海域に漕ぎ出す5 訓読から見なおす東アジア』東京大学出版会2014. 7 pp110-122
- (8) 藍弘岳『漢文圏における荻生徂徠』東京大学出版会2017.12 p273
- (9) 大島吉郎「『唐話纂要』の『常言』に関する幾つかの問題について」『中国言語文化学研究』第6号大東文化大学大学院中国言語文化専攻(2017) pp57-59
- (10) 藍弘岳『漢文圏における荻生徂徠』前掲 p273
- (11) 成海俊「日本の『明心宝鑑』と五大僧」『日語日文学』第50輯大韓日語日文学会2011. 5 p310
- (12) 成海俊「日本の『明心宝鑑』と五大僧」前掲 pp314-317

社会主義中国と創価思想

樋 口 勝

目次

- 1 はじめに
- 2 中国共産党の宗教政策
- 3 中国のマルクス主義者・馮契の宗教観
- 4 社会主義社会に適合する宗教
- 5 創価思想との対話
- 6 おわりに

1 はじめに

本日は、創立者池田大作先生の日中国交正常化提言50周年を記念する、意義深いシンポジウムで報告をする機会を頂き、誠にありがとうございます。⁽¹⁾今日は「社会主義中国と創価思想」というテーマで、宗教を否定するはずの社会主義中国と、大乘仏教に基づく牧口常三郎先生や池田先生の創価思想が、なぜ交流することができたのか。つまり、中国における社会主義と宗教の交流は、なぜ可能であったのかという点について、中国の状況と創価思想を対比しながら検討していきたいと考えています。⁽²⁾（以下、敬称を省略）

ご存知のように、池田が日中国交正常化を提言したのは50年前の1968年。

1968年という、中国は文化大革命の真っ最中で、極左主義による宗教弾圧が極点に達していた時期でした。そんな時期に、池田は日中国交正常化の提言を行ったわけです。当時、池田は、共産主義と宗教について次のように述べています。「宗教をアヘンだときめつけるような共産主義者とは協調できるわけではない。だが、私たちの理念を理解する共産主義者に対して、反共の態度で臨んではならないと思う。私たちはコミュニストではないが、反共主義者であってはならない。国交というものは、イデオロギーの違う国と、どのように協調していくかという、困難な作業をやり抜くことだと思う⁽³⁾」と述べ、アジアの安定と繁栄、世界の平和のために、イデオロギーの異なる共産主義国家である中国とも親善交流をすべきだと主張されました。

それから50年。当時は、宗教間対話を行える状況ではなかったわけですが、それが50年経った現在、特に2001年以降（2001年北京大學池田大作研究会設立以降）、中国全土で池田思想研究センターが次々と設立され、今年（2018年）の10月には上海で第10回池田思想国際シンポジウムを開くまでになりました。その他、中国の各地で池田思想のシンポジウムが行われています。⁽⁴⁾

なぜ、宗教を否定するはずの社会主義中国と、宗教を根底にした創価思想が交流することができたのか。本日は、中国の宗教政策の変化と、馮契というマルクス主義の哲学者の宗教観に焦点を当てて、宗教という視点から交流の意義を考えていきたいと思います。

2 中国共産党の宗教政策

中国は、中国共産党の一党独裁の社会主義国家です。社会主義というと、マルクス主義。マルクスと言うと「宗教はアヘンだ」と主張したことから、社会主義、共産主義国家は宗教を否定する国家だと考えられてきました。実

際に、中国でも宗教は弾圧されてきた。ところが、1978年の対外開放政策以降、状況が変わりました。

一般に、マルクス主義の宗教批判は、次のようなものです。①人間の依拠心を増幅し、現実社会を軽視し、彼岸世界を説く。②非科学的な迷信を説く。③現実逃避させ、社会改革を阻害する。④宗教の権威を振りかざす独断論だ、⁽⁵⁾というものです。中国共産党は、今でもこのマルクス主義の宗教観を堅持していますので、中国の憲法（1982年）では信仰の自由を認めています。中国共産党の党員（約9000万人）には原則的に信教の自由はありません。中国共産党の宗教観では、「社会主義の発展によって、宗教は最終的には消滅する」と思っています。但し、「社会主義の初級段階（現代）においては、長期的に存在する」という考え方を持っている。⁽⁶⁾それゆえ、中国政府は、仏教、道教、イスラム教、カトリック（天主教）、プロテスタント（基督教）を五大宗教として公認し、一定の宗教活動を認めています。

しかし、そんな共産党の宗教観は、宗教を否定するわけですから、実際は、建国当初から厳しく管理されてきました。特に、1966年から77年まで続いた文化大革命という政治運動の時は、一切の宗教活動は禁止されました。仏像や文化財は破壊され、僧侶や神父は還俗させられています。中国伝統思想の儒教も批判されました。伝統文化も宗教も徹底的に否定され、社会主義だけが正義だ、という教条主義の時代であったわけでした。⁽⁷⁾

文化大革命が終わって、1978年になると、今の経済発展につながる改革開放政策が始まります。それまでの中国では、社会主義の建設に貢献することが道徳でした。しかし、文化大革命を経て、中国共産党は路線変更をします。今度は平等を旨とする社会主義ではなく、資本主義体制の市場経済を導入し、経済発展を目指して走り始めました。市場経済の導入ということは、競争原理を導入するということです。競争があれば、成功する人、失敗する人が出て、物質的な格差が生じる。すると、人間には、物質的なものやお金

に対する執着心が生まれる。物質的な豊かさに憧れる。それに伴って、社会全体が拝金主義になり、人々の道徳心が荒廃していきました。

そんな状況に対し、中国政府は経済発展だけでなく、国民の道徳心や心の平穏という精神面も大事だ、と考える。じゃあ、どうすればいいか？そこで、中国共産党が考えたのが、①伝統文化の再評価と、②宗教の復活⁽⁸⁾でした。この宗教の復活という点で、最も基本になるのは、1982年に決定した「19号文件」と呼ばれる宗教政策です。これは、文化革命期の宗教政策を否定して、信仰の自由と宗教活動の再開を認めたものでした。それは、共産党の外にいる宗教の信者を、共産党と共に歩む統一戦線の同志だ、仲間だとした⁽⁹⁾ものです。

それによって、80年代以降、宗教を信仰する人が爆発的に急増する。現在、中国の宗教人口は、約3億人だと言われています。2007年になると、中国政府（胡錦濤政権、共産党第17回大会）は、宗教を積極的に利用する政策に転換します。そして、3億人と言われる宗教の信者と統一戦線を組んで、中国の建設に取り組もうとしてきました。

しかし、中国政府、中国共産党にとって、すべての宗教がいいわけではありません。中国共産党に協力的な宗教に対しては容認しますが、共産党に敵対的な宗教は取り締まりの対象です。その意味で、本当の信教の自由があるわけではありません。では、どういう宗教であればいいか。それは、①宗教指導者に対する個人崇拝をしない、②政治活動に関与しない、③国外の宗教勢力と連携しない、という3つの条件を満たす宗教です。そういう宗教であれば、政府は容認し連携する。要するに、国家を愛し、共産党を支持し、社会の安定に役に立つ⁽¹⁰⁾ということが条件でした。

3 中国のマルクス主義者・馮契の宗教観

次に、マルクス主義哲学史家・馮契の宗教観について見ていきたいと思います。馮契（1915-1995）は、長年、上海の華東師範大学で教鞭を執られ、唯物弁証法をもって中国哲学史や認識論や価値問題を探求した著名な哲学者です。馮契はマルクス主義哲学者ですから、宗教に対しては基本的に否定的です。馮契の宗教観をまとめると、以下のようになります。

①宗教は人間の依頼心を増幅した。現実社会を軽視し、彼岸世界を説いた。②非科学的な迷信を説いた。それによって、人間の本質的な力の発揮を疎外した。③人々に彼岸世界での幸福を求めさせ、現実逃避をもらし、社会改革を阻害した。④封建制の統治に利用され、権威主義を助長し、独断論になった、という点が挙げられます。⁽¹¹⁾

これらの宗教批判は、基本的に従来のマルクス主義に見られるものと同様です。馮契のこれらの宗教批判は相互に関連していますが、宗教の問題点は、人間の本質的な力の発揮を阻害し、社会改革を阻害する点にあると考えていました。また、非科学的な迷信で、権威主義の独断論であるので、宗教は真理を認識できず、徳性（道德心）を涵養することもできない。つまり、宗教では、理想人格の養成も、真理の探究もできないと考えていました。

馮契の価値哲学では、人間は真善美と利の価値を実現することによって、人間の本質的な自由を獲得できると説きます。つまり、自由を獲得することが人間の本質であり、人生の目的だと考えました。自由とは、自然の天性の中で養われる道德性（徳性）であり、その道德性を獲得するために、人道（人間性）と天道の（宇宙の法則性）を貫く真理を体得する必要があると言います。それを「転識成智」（知識を転換して智恵と成す）と言い、知識から知恵への転換には飛躍が必要であるとししました。

それゆえ、馮契は、自然との合一（中国哲学で言う「天人合一」）を志向

し、具体的な現実社会の中で、有限な人間であっても如何にして無限性を顕現することができるかという、「理想人格」の完成を目指しました。また、こういう知識や智慧は、「天人合一」に到達するための認識論に属するので、「広義の認識論」とも呼びました。⁽¹²⁾

こういった観点から、人間の外に存在する神に依存する宗教ではなく、人格向上を目指す宗教、意識主体の能動性を説く宗教、特に禅宗の「頓悟」については一定の評価をします。ただ、そうは言っても、宗教は科学的検証に堪えない故に、神秘主義や唯心論に陥ったとしています。⁽¹³⁾すると、単純化して言えば、馮契は、①人格の向上を目指し、②社会改革を進め、③科学的に検証できる、三つの条件を備えた宗教は存在しないと考えていたことになります。逆に言えば、この三つの条件を備えた宗教であれば、承認できるはずで。そうであれば、残る問題は③の科学的検証という点です。

馮契は、科学の理性と宗教の想像性あるいは直観知との関係を指摘し、双方を統一する必要性を説きますが、そもそも科学と宗教の役割は、異なる次元のものです。馮契が言うように、究極の絶対的真理は検証できない故に、宗教の説く本体論を証明することができないのは確かです。しかし、自然科学にしても全てが解明できるわけではない。そうであるならば、自然科学で検証された原理は認める必要はありますが、③の科学的に検証できるという条件は、少なくとも科学と矛盾しない、というレベルまで緩和する必要があるのではないのでしょうか。

馮契は、科学主義と人文主義、あるいは知識と智慧の矛盾を克服しようとして、前述した「広義の認識論」、「転識成智」という理論を提起しました。その意味では、科学と宗教の矛盾を克服しようとしたとも言えるように思います。つまり、これまでの科学は知識論偏重で、人間のあり方に無関心であった。一方、宗教は人間のあり方を説くことに偏重した。しかし、その際、究極の問題には回答できない故に、科学的な実証を無視して、究極的な

存在としての神や天を想定あるいは要請せざるを得なかった。単純化して言えば、馮契は、そういう矛盾を克服しようとしたのではないかと思います。

4 社会主義社会に適合する宗教

3番目に、習近平政権における宗教政策の特色について見ておきたいと思っています。習近平は、2016年に開催された「全国宗教工作会议」において、党はマルクス主義宗教観を堅持しつつも、中国の国情に基づいて党の管理の下で、「宗教・信仰の自由政策」を貫徹すると述べました。その上で、中国における今後の宗教のあり方について、概ね以下のような談話を行いました。⁽¹⁴⁾

- ①マルクス主義宗教観を堅持し、宗教が社会主義社会に適合するよう積極的に導くことが必要である。
- ②宗教信仰の自由政策は、宗教を信仰する人と宗教を信仰しない人々を最大限に団結させることに主眼がある。
- ③宗教を信仰する人々が祖国を愛し、人民を愛し、祖国の統一を擁護し、中華民族の大団結を擁護し、国と中華民族に奉仕するよう導く。
- ④中国共産党の指導を擁護し、社会主義制度を擁護し、中国の特色ある社会主義の道を歩むことを堅持する。
- ⑤社会主義の核心的価値観⁽¹⁵⁾を実践し、中華文化を大いに発揚し、宗教の教義と中華文化との融合に努める。

中国共産党は、宗教信仰の自由とは言うものの、マルクス主義の宗教観を堅持するわけですから、本質的には宗教の世界観とは相違します。宗教は有神論であり、マルクス主義は無神論です。それゆえ、長期的には宗教は消滅すると考えていますが、現状では多くの宗教信仰者がいます。時代は変化し、社会も変転していくものですが、その中であっても、マルクス主義の基本原理は科学的真理として信奉し続ける。しかし、マルクス主義を発展させ

るためには、現代中国の具体的な状況と結びつけて、実践する必要があると言います。こういった考え方が、習近平政権の宗教政策の特色に繋がっていきます。

では、習近平政権の宗教政策の特色とは何か？一つが、①社会主義社会に適合するよう宗教を導くことであり、もう一つが、②宗教の中国化の方向を堅持することです。この二点については、2017年10月の第19回中国共産党大会における、習近平の3時間に及ぶ演説や、2018年4月の宗教白書（「中国の宗教信仰の自由を保障する政策と実践」⁽¹⁶⁾）の中でも強調されています。

では、「社会主義社会に適合する宗教」とは何か。それは、先に挙げた②～④でも示されているように、中国共産党の指導の下で、社会主義制度を擁護し、中華民族の大同団結を促進させ、中国の特色ある社会主義の道に貢献することです。

中国共産党は改革開放以降、経済建設と共に精神文明建設にも注力してきました。習近平は、「（経済建設は党の中心課題であるが）同時に物質文明建設と精神文明建設にも力を入れ、国の物質的な力と精神的な力を共に強化し、全国各民族人民の物質的生活と精神的生活が共に改善されてこそ、はじめて中国の特色ある社会主義事業は順調に前進できる」⁽¹⁷⁾と述べています。つまり、精神文明の建設、換言すると、「国の文化的ソフトパワーの向上」⁽¹⁸⁾のためにも、宗教を活用して社会主義の精神文明建設に役立てたい、また民族問題や宗教問題などの矛盾解決のための国内統治に役立てたいということです。⁽¹⁹⁾

二番目の「宗教の中国化」というのは、先に挙げた⑤で言うように、「社会主義の核心的価値観」に基づいて宗教信仰者を指導し、中華民族の優れた伝統を発揚する。そして、それぞれの宗教教義において、社会の調和や時代の要請に合致した、現代中国の発展に貢献できる教義解釈を探求し実践することだと言います。⁽²⁰⁾つまり、宗教観の違いによって、宗教を否定するのでは

なく、「社会主義の核心的価値観」の育成・発展に役に立つことが求められているわけです。逆に言えば、「社会主義の核心的価値観の育成・発揚は必ず中華民族の優れた伝統文化に立脚しなければならない」とあるように、中華民族の優れた伝統文化を社会主義の核心的価値の源泉としようとすることを意味しています。

この「社会主義の核心的価値観」という標語、今、中国に行くと、街中の至る所の横断幕や掲示板で見かけます。それは、富強、民主、文明、調和：（国の建設目標）、自由、平等、公正、法治：（社会の構築理念）、愛国、敬業、誠信、友善（国民の道德規範）の24字で表された国と社会と国民が守るべき価値観だと盛んに教育、宣伝しています。

要するに、習近平が掲げる「中華民族の偉大なる復興」という「中国の夢」を実現するための国家目標であり、社会の理念であり、国民の道德規範です。「中国の精神文明を建設するために、宗教は奉仕せよ」。そういった宗教であれば、社会主義中国でも、長期にわたって存続することができるということを強調したわけです。

以上のように、宗教は、社会主義中国の宗教観から言えば、①人格の向上、②社会の改革、③科学的な検証ができない故に、唯心論とみなされてきました。しかし、そうであるがゆえに、具体的な宗教政策の面で、「社会主義の核心的価値観」を探究する宗教を習近平政権は求めている。それを「社会主義社会に適合する宗教」と言ったわけです。

5 創価思想との対話

創価思想を一言で言うと、キーワードは「人間革命」です。前述した内容の関連で言えば、人間自身の変革によって、現実の生活や社会の変革を推進することを強調します。つまり、彼岸世界を説くのではなく、神や仏などの

外在的他者への依頼心を説くのではない。牧口価値論で言えば、利善美の価値を創造することによって、人間は幸福を感じる。人に利する行動をすることによって、自分自身が幸福を感じる。あくまで、人間自身に備わる絶対的価値である仏性を顕現することを目指し、そのために人格完成や社会実践を促すものでした。また、科学的検証という面で言えば、牧口は、①科学・哲学と矛盾せず調和できること、②生活上に現象が現れること、③現象が経文の説く教理と一致する宗教を探究しました。そして、宗教の本質の科学的把握を目指し、信仰の体験とその評価という「価値科学」を提唱しました。

一方、池田は、自然科学から社会科学、人文科学に至るまで、様々な学問との対話を推進してきました。しかも、様々な学問の成果を吸収しながら、池田が信奉する日蓮仏法の現代的な解釈を展開している。そして、その多くが現代科学の成果と一致あるいは近似、さもなくば科学発展の方向性を示唆するものになっています。もちろん、生命のあり方について言えば、自然科学的に検証され、証明されたわけではありません。それゆえ、池田が言う生命の概念は、現段階では科学による直接的な証明にはなりませんが、少なくとも傍証にはなっています。その意味で、先に挙げた「科学と違背しない」という条件はクリアしています。

宗教は直感智によるところが大きいと言えますが、こういった直観による宗教上の「仮説」は、科学的な理性で全て検証することは不可能です。それは、人間の知的能力に限界があり、その範囲を超えた宇宙の究極にあるものや、人間の生命の本質に関する定義は、すべて「仮説」にならざるを得ないからです。

池田はこの点に関して、「科学上のそれと宗教上のそれとは、区別して考えなければならない」と言います。科学上の「仮説」は理論的・実験的にその真偽が確認されなければならない。しかし、宗教上の「仮説」は人生の納得できない現象をどう説明し、それに基づく判断や行動に有効性を持つかに

よって評価されるべきだ。それゆえ、科学は真偽を問われ、宗教は人間的資質の向上のために役立つか否かの価値が問われなければならないと主張しています。例えば、輪廻しながら生命が永続していくという仏教の「仮説」の場合、確かに自然科学的には証明はできない。しかし、自分以外の超絶者による支配ではなく、現在の境遇は自分自身の責任による主体性の確立を可能にするものだと言います。⁽²²⁾つまり、宗教の存在意義は、一人一人の人間の人格完成にあるということを強調しているわけです。

こうした「価値」という点を馮契と比べてみると、馮契も牧口も池田も、価値は人間の幸福に対する有用性であると考えerる点は共通しています。つまり、対象と主体の関係性の中であって、価値を創造するのは主体の側の努力にかかっています。馮契は真善美の価値の創造を主張し、牧口は利善美の価値創造を提唱しましたが、主体の変革によって価値も変化するわけですから、人間の幸福という価値を実現するためには、主体の変革が重要になってくるわけです。

要するに、馮契も牧口も池田も、人間の内なる価値を如何に高めるのか。主客は相対的であるので、価値は相対的です。それゆえ、人間の精神性を強めることによって、価値創造が可能になり、人間の幸福が実現できると主張します。また、他者との比較による相対的な幸福ではなく、自己の内に築く絶対的な価値を実現することを求めました。馮契はそれを「理想人格」、「天人合一」と表現し、創価思想では「人間革命」と表現しました。

6 おわりに

習近平は、「中華民族の偉大なる復興」という「中国の夢」を実現することが、国家の富強、民族の振興、人民の幸せを実現させるのだと強調します。そのために、経済を中心とする物質文明の建設だけではなく、道徳や文

化を中心とする精神文明の建設にも力を入れてきました。その一環として、本来、社会主義と宗教は相容れない世界観であったものを、社会主義強国の実現に資する宗教として、「宗教の中国化」、「社会主義社会に適合する宗教」という命題を与えて、宗教教義や実践の中から「社会主義の精神文明」に資する要素を汲み取ろうとしています。

確かに、社会主義中国の「宗教・信仰の自由政策」は、中国共産党の管理・指導の下での自由です。その意味では、「宗教・信仰の自由」と言っても、日本でいう信教の自由とは違います。つまり、社会主義の政権維持に抵触しない範囲であれば、個人の信教の自由を認めますが、共産党の政策や社会主義の価値観に反する宗教は取締りの対象になります。また、公共の場での布教や宣伝は認められていない点は、留意する必要があります。

そういった制約があるにしても、宗教の理念、教義、思想の交流という面から考えると、社会主義中国が求めることと創価思想との共通項は多い。なぜ、2001年以降、中国の多くの研究者が池田思想を研究するようになったのか。それは、①改革開放政策の中で、人間の精神性を模索するようになった社会状況、②創価思想、池田思想の人間主義という、人間の変革を促す思想哲学が、中国社会の発展と人間の幸福に有用だと考えたからではないでしょうか。

池田は常々、「人間の幸福に寄与する宗教」を強調し、各宗教のよりよい精神性を発掘するために、宗教間対話を推進してこられました。その中で池田は、宗教間対話の要諦として、次の四点を挙げています。⁽²³⁾①それぞれの宗教が、その創始者の『原点の心』に返る、②対話のための『共通項』を探す、③対話・協力のための『共通の目的』をもつ、④教育による連帯。これらの四点は、社会主義中国と創価思想との対話にあっても、重要な要素であると思います。

また、習近平が言う「社会主義社会に適合する宗教」や「宗教の中国化」

という宗教政策の根底には、宗教の精神性から人間のあり方を学ぶ姿勢が伺えます。その意味で、社会主義中国と創価思想は、両者の宗教観（本体論）に相違はあっても、人間の幸福、社会の繁栄、日中の友好、世界の平和のための対話を展開していく基盤と目的は、互いに通底していると言えるのではないのでしょうか。

池田は日中国交正常化提言から6年後、初めて中国を訪問します。1974年のことでした。訪中の旅を終えた後に、出版社からの依頼で訪中記を執筆し、『中国の人間革命』という書物を刊行しました。当時は、まだ文化大革命の最中でしたが、マルクス主義と宗教に関する見解も述べられています。「宗教のなかには、観念的、迷信的で、現実と遊離したアヘン的なものも少なくありません⁽²⁴⁾」と言い、当時、中国が宗教に対して否定的であることに理解を示しています。

その上で、「もしも、はるかに遠い将来、中国の民衆が宗教を受け入れることがあるとするならば、それは従来の暗いイメージがただよう宗教とは全く異なるものであり、“人民に奉仕する”人間を生み出し、民衆文化の創造のエネルギーに満ちあふれたものでありましょう。真の宗教は、どこまでも社会のなかで生き、民衆の幸福に寄与していくものであります⁽²⁵⁾」と、社会主義中国と宗教との将来の関係を予見しています。そして、「(社会主義と宗教の)二つの立場の間には、世界観や物の見方・考え方、価値観などで違いは出てくるでしょう。しかし、この差は、友好の妨げにはならない。結局、人間と人間の生命次元の触発作業こそ、最も大切である⁽²⁶⁾」と主張しています。

これまで見てきましたように、社会主義中国は、池田の50年前のこの予見の方向性に動いてきました。創価との友好交流も発展しました。確かに、この数年の西側の報道では、中国政府による思想・宗教の弾圧など、信教の自由を否定する状況が報じられています。ただ、それは、チベットやウイグル

の独立問題や、イスラム過激派のテロ問題、地下教会の管理問題など、共産党による国内統治の不安定要素を取り除くのが目的です。もし今後、中国政府に、創価思想は「社会主義社会に適合し、中国文化の創造のエネルギー」を引き出す思想、中国社会と民衆の幸福に貢献し、よりよい人格形成に役立つ宗教だと認知されるようになれば、思想・宗教の側面での友好交流もより進展していくのではないでしょう⁽²⁷⁾か。

注

- (1) 本稿は、2018年9月8日に創価大学で行われた、創立者・池田大作先生の日中国交正常化提言50周年記念「日中新時代フォーラム」（主催：創価大学、後援：中華日本学会）における報告を加筆・訂正した原稿である。
- (2) 銭丹霞「中国の宗教環境と池田思想研究会」（『宗教研究』81巻4号、日本宗教学会、2007年）pp.898-899. では、中国人研究者の間で池田大作に対する関心が集まっているものの、中国に対する宗教的側面での影響についての研究は少なく、今後の課題だと述べている。
- (3) 央忠邦著『池田大作の軌跡1』徳間書店、1980年、p.57
- (4) 高橋強「中国における『池田思想』研究の現状」、『創価教育研究』第3号（創価教育研究所、2004年、2008年『創価教育』に改題）所収。その他、同氏により2017年3月までに「中国における『池田思想』研究の現状（14）」が紹介されている。
- (5) 朱越利主編『今日中国宗教』、今日中国出版社、1994年、pp.20-29.
- (6) 江平「必須堅持馬克思主義関与宗教問題的基本理論観点」（1983年）、江平著『民族宗教問題論文集』（中共党史出版社、1995年所収）pp.343-356.
- (7) 川田進『東チベットの宗教空間 中国共産党の宗教政策と社会変容』第一章「中国共産党の宗教政策——毛沢東から胡錦濤まで」pp.35-82.
- (8) 拙稿「現代新儒学の背景とその視点——中国文化の発展をめぐる」、『創価大学外国語学科紀要』第5号、1995年、pp.19-47. 参照。
- (9) 国家宗教局政策法规司編『中国宗教法規政策読本』、宗教文化出版社、2000年、pp.9-17.
- (10) 江平「認真学習馬克思主義的宗教理論和党的宗教政策」（同上）pp.371-381. 関田泰由「中国共産党政権下における宗教」、『日本大学大学院総合社会情

報研究科紀要』第5号、2004年所収、pp.68-78.

- (11) 馮契著『人的自由和真善美』（『馮契文集』第三卷、華東師範大学出版社、1996年）PP.139-150. 拙稿「科学と宗教——仏教とマルクス主義の対話」（『創大中国論集』第15号、2012年）PP.47-87. 参照。
- (12) 馮契著『認識世界和認識自己』（『馮契文集』第一卷、華東師範大学出版社、1996年）pp.7-50. 拙稿「相対主義と絶対主義の相克」（『創大中国論集』第10号、2007年）pp.43-54. 参照。
- (13) 馮契著『中国古代哲學的邏輯發展』中卷（『馮契文集』第五卷、華東師範大学出版社、1996年）pp.301-310.
- (14) 「党の民族政策と宗教政策を全面的に貫徹しよう」（2016年4月22日、全国宗教工作会議での談話）、『習近平 国政運営を語る』第二巻、外文出版社、2018年所収、pp.335-336.
- (15) 同上の日本語訳では、「中核的価値観」となっているが、原文では「核心価値観」となっているので、本稿では「核心的価値観」に統一する。
- (16) 2018年4月3日付新華網掲載、国务院弁公室が発表。宗教白書は1997年以来はじめてで、中国において宗教信仰は自由であるが、中国は共産党が指導する社会主義国家であるから、宗教は社会主義社会に適合する必要があると強調している。
- (17) 「宣伝思想工作をよりよく行う」（2013年8月19日、全国宣伝思想工作会議での談話）、『習近平 国政運営を語る』、外文出版社、2014年所収、p.169
- (18) 「国の文化的ソフトパワーを向上させる」（2013年12月30日、第18期中央政治局第12回グループ学習会での談話）、同上 p.176
- (19) 江藤名保子「習近平政権が進める『宗教の中国化』とは」（2018年8月11日、笹川平和財団、第8回論考）
- (20) 何虎生、黄菊「開拓馬克思主義宗教観中国化的新境界」（2018年8月6日付、中国民族宗教網）参照。
- (21) 「社会主義の核心的価値観の育成と発揚」（2014年2月24日、第18期中央政治局第13回グループ学習会の談話）同上 p.179
- (22) 池田大作、アーノルド・トインビー著『二十一世紀への対話（上）』（聖教ワイド文庫、聖教新聞社、2002）pp.24-25.
- (23) 池田大作、ハンス・ヘニングセン著『明日をつくる教育の聖業』（潮出版社、2009年）pp.191-196.
- (24) 池田大作著『中国の人間革命』、毎日新聞社、1974年、p.181

- (25) 同上
- (26) 同上 p.182
- (27) 池田は、第44回「SGIの日」記念提言「平和と軍縮の新しき世紀を」(2019年1月26日)の中で、カール・ヤスパースの「限界状況」の「(人生において)客観的な解決などというものは永久にあるわけではなく、あるものは、その都度の解決だけである」という考えを引き、中国と旧ソ連との友好交流について言及した。池田は、冷戦対立が激化した時代に、「宗教者が、何のために宗教否定の国へ行くのか」という批判に対し、平和を強く願う宗教者だからこそ、何としても友好交流の基盤を築きたい、それぞれが「一回限りの状況」だと思って教育交流や文化交流を広げてきた、「万能な解決策」などなかったと述べている。

資中筠⁽¹⁾「改革開放」⁽²⁾観

李 燕

目次

はじめに

1、政治経済観

2、教育観

3、愛国観

終わりに

はじめに

2018年7月 WeChat の設定後、筆者が資中筠のピアノ独奏を見た。驚いたのは当時87歳の彼女は、ピアノ演奏以外、現代中国思想の先駆者と「改革開放」思想を引いた人物の一人だと分かった。彼女の発言を通して、その思想と観点の鮮烈さに感銘し、流行っている「中国夢」の勢いを展望することができる。以下は資中筠の近年と最近の講話、彼女への取材で、改革開放40年における彼女の独自の思考、その発展史等を考察してみよう。

1、政治経済観⁽³⁾

(1) 誰が国の主人公？

政治を行う目的は民衆を守る。これは根本の目的である。清朝末期から、富人から百姓までは、政府を仰向けの状態である。独裁の政治で、健全の法治を持たず、内乱と外患で政府の力が弱くなって、民間の力が発展のスペースを得て、思想の活躍と文化の多様化が見られる。

改革開放には私有財産、民営の企業と国営の企業の地位、市場経済に対する認識、そして私有産業の法律の保護などについて、どのように意識するのか。

世界は工業化後、数字経済時代になって、聡明である中国人も一生懸命に追いかけて、結果として、足が現代に入って、頭がまだ現代の前に、そのバランスがどうとるのか。

40年前の改革開放は、180年前の鉄砲と軍艦に開けられた「開放」ではなかった。1世帯2世帯の中国人が自分の内部と外部の力で目を開いて、国際とつながり前進をしつつある。鎖国に戻らないはずである。

全世界の背景の下、改革開放がたくさん豊富の資源を集めたが、傲慢な「強国夢」を戒めよう。

(2) 真実を話す権利は？

中国は古代文明の国であり、輝いた文化を持っていた。農耕文明の歴史が長く、成熟で精緻であり、高水準が表しているが、教科書には、アヘン戦争以来、一連の敗戦があり、いくつの不平等条約が結ばれ、近代史は帝国主義の中国侵略史だと、これは、一方的、不公平な評論である。歴史に対して客観的、真面目に経験教訓をまとめなければならない。

アヘン戦争の記録は少なくとも180年間であったから、改革開放は少なく

とも180年間である。また、中国は30年間で西洋の300年間の道を歩き終わったと言って、これは事実と反するのである。前人の努力と犠牲と貢献は、光輝と悲壮の歴史を作った。

中国は欧米を代表した西洋文化と出会った時、すてに遅れた。大体14、15世紀頃、欧州は中世紀を終えたが、中国は王朝往復の中に定着していて、発達した古代文明は、その時、変革を阻害する重荷になった。こうして近代化と開放と離れられない。国の門を開けなければ根本的な変化が不可能である。「開放」とは発達した国に向けて開放する。180年前にしたことは、40年前も同じことにしたのである。

「文革」は民衆に多大な災難を与えた。これは忘却していけない。似ている言論、思考方式は終止符を打とう。旧時代の信仰と「階級闘争」の体系が崩壊した後、全民衆が承認する新価値体系は、実践と理論と一致していない。10何億の貧苦の民衆が豊かへの生活の欲望とその才能を、一旦その力を釈放したら巨大なエネルギーで巨大なものを創造した。

もう一方、精神的貧困から拝金主義が生まれ、様々な社会の矛盾における事態が緊急化される。人々は平等かつ清廉に憧れ、しかし新しい精神の源泉、道程がまだ発見しなく、記憶あるいは伝説、神話を振り返る反理性、反常識、反ロジックの思想の氾濫を警戒するべきである。

(3) 階層の固定化⁽⁴⁾?

社会には、「富二代」「官二代」は良い資源を占めて、ほかの人の進路に阻害するのか。たくさんの人が未来に自信が失ってしまわないため、活力のある社会が階層の流動性が必要。もしある階層の子々孫々が永遠にその階層にいて、たくさん若者がいくら努力しても、相応しい生活にならないとすれば、その社会は前進しない。

ある社会の腐敗は、教師自身が賄賂を受け、賄賂をする。健康の力は全社

会の腐敗に戦わなければいけない。

現在、たくさんの若者がどのように子どもを教育するかはわからない。さらにある若い夫婦も子どもを敢えて産むことにしない。なぜならば、どんな教育を子どもに受けさせるのは分からないから。子どもに誠実を教えるのか、また歪んだ物を教えるのか。もし子どもに誠実を教えていたら、将来社会に成り立てるかしら。また子どもはどのように教師に対応するか、プレゼントを差し上げなければ良いなのか。

このような教育制度のもとで教えていた子どもたちはどんな様子になるか。極端の話、一方、奴隷。もう一方、奸商になるか。一番よく仕事ができる人は、技術者、しかし独立の思考と精神、社会を促進する良い公民にならない。このような教育の危機は現在、存在している。

教育は大きな危機を臨んでいる。これは民族の全体を退化させる。私はかつて言った。現在の教育は私たちの民族の人種を退化させるのではないのか。

2、教育観⁽⁵⁾

(1) 教育の目的は？

教育の目的は真実と真理を教える。物事が分からない人に分からせるのは啓蒙、実は素朴で簡単で高深な道理ではないものである。

教育は、人を育て、人をよくさせ、この社会の良い人を養成することである。社会には、人から成り立て、多数者が文明人であれば、この社会は当然、比較的文明の社会である。もしこの社会を改善しようとすれば、人が改善させる。この社会を破壊しようとすればやはり人によって破壊される。人間は主要な要素と原動力である。

教育はすなわち自然人を社会人に変え、原始人を文明人に変える。簡単に

言えば教育は文明人を養成することである。

100年前に、梁啓超は言った。今日の世界の競争は国民の競争である。あの時代に、中国人が自分の貧弱を痛感し、外国からいじめられて、どこに問題があるか？それは船や鉄砲より弱い国民にある。どんな国民がいるかどんな国である。

国として、他国から尊重されるかどうかは、国土の大きさ、GDPの高さ、人口の多さにもかかわらず、国民の素質と品格が最も重要視される。だから信頼されることは大事であり、真実を話すのも大事である。このような民族は世界から尊重されるのである。

（2）教育と啓蒙は？

教育は誠に最高の境界であり、理想のため、社会に役に立つ人のため、社会を進歩させるため、今まで、このような教育を追求する人が比較的少数である。

教育の目的は、この社会を改善し、より良い公民を養成して、どんな仕事にしても、たとえ、簡単な職業、複雑の職業、まず社会に対して役に立つ人、道徳と知恵が比較的健全な人。これは基本である。このような基本的道徳の持つ人が多ければ、社会の進歩を絶えず文明の方向に発展させていく。これは私たちの最高の教育目的である。

義務教育は、国外に強制教育とも呼ばれる。いわゆる政府が国民に無料で教育を提供する。公民は必ず教育を受ける。もし子どもが家で学校に行かない場合、非法になる。学資に困難であれば、政府が考慮する。教育は公民の権利、公民の義務になる。

我々の教育が子どもたちに「器量の小さい人、卑劣な人」になる。生徒が自分で手作りのプレゼントを交換するとき、教師がとんでもないと言った。その教師から見れば、買ったプレゼントの価値がある。このような教師がど

んな人材を育成するのか。

(3) 独立の人格と自由の思想は？

実際、現代社会の教育は本来、独立の人格と自由の思想を育てるべきである。私たちはいつも新しいものを創造する人材と言って、今、中国にはこのような人材が足りない。つまり新しい発明と創造をたくさん必要なのである。

新しいものを作り出すのは1日だけ不可能であり、幼児期から育てるのである。なぜ中国の科学が発達しないのか。子どもに小さい時から好奇心を持たせず、この好奇心を育てない。子どもに何も問わず、大人の話聞かせるだけ。大人は必ず正しい、子どもは必ず間違っていると。このような教育のもとで子どもは新しい精神を創造するのが発揮し難い。

高い境界の教育は、独立の人格を養育し、少なくとも独立の思考の能力があって、自分が正しいかどうかを判断する能力、これも啓蒙である。

啓蒙とは何か。もし教室の中で教師が間違った言動に対して子どもが指摘すれば、それは失礼なのか。しかし事実上、教師としては賞賛をしてあげなければいけない。こうして教師を助けてもらう。もし、学生が本当に間違ったら、どこに間違っているかと分からせて、この状況は中国の教育の中には少ないのである。

一つの文明の進展のプロセス、それは第二次世界大戦以降になって、再び戦争しない。話し合っって問題を解決する。会話することは戦争するより文明的な進歩である。

(4) なぜ教育を受けるか

この動機について様々な目的がある。貧困の農村には保護者は子どもが将来騙されない為、たくさんの例があつて、ある村には一が月一回、市場へ

家の金で買って買い物した子どもが、いつも騙される。もし文字や算数ができれば騙されないと。この事実は確かに教育を受ける動機と目的の一つである。

教育は消費では無い。教育を受けるには公民の基本的人権と権利である。もし学校を消費産業として見るならばそれは間違っている。教育を受ける機会は全員平等であり、平等の起点から公平の競争を保障するのである。

また、競争とは、社会の最も重要な公平的競争の場であるが、なぜならば、人の才能、努力の程度が違う。全ての人に平均主義をしたら、良し悪しはどちらかに区別できなく、人と同様にすることを見れば公平に見えるが、実は不公平である。公平とは平等の条件のもとに、平等から出発し、各人が特徴を発揮する。より良い聡明で、より良く仕事して、よく努力した人はさらに大きな成功を納め、さらに報いをもらおう。

(5) 教育機構を作る目的は？

まず、王朝時代には、貴族と奴隸の区別があって、教育を受けるのは基本的に貴族階級であった。奴隸はその機会がなかった。そのように、教育は統治者が民を操る教育で、多数者が「愚民」で、道理を知る必要がなく、「順民」「臣民」を養成したのである。

資本主義が発達した段階になると、技術労働者が必要、教育の普及が工業化から始まった。非識字者は複雑の機械が操作できないならば、資本家が労働者を教育する必要があった。

社会の発展によって知識がますます得ることにして、教育普及の程度もますます高くなった。改良主義の福祉国家の概念には、教育が政府の責任になった。義務教育の長さは、社会発達の実際の状況に見られる。最初は小学校4年、そして6年、その後9年、現在、発達の国は12年間、高校までである。

資中筠は中国の教育に心配する。今現在の教育方式は、人の創造性と想像力を抹殺するのである。それは教育の本質のものを破壊しているのではないかと。解決するのは思想を開放して、私立の学校教育を作る事ことにしよう。

または、官を重視し、官本位をする教育の現状を改善しなければ、中国人の人種が退化する。清華大学100周年の祝い活動は、官の級別ごと、話をしていた。

上級の教育機構は、唯一の考察の基準は進学率であって、人々も皆大学に受かる進学率に集中して、高い進学率の手段を選ばず、とにかく、大学に受かれればよい。大学に落ちたら、疎外される。

教師の職名と待遇も全部高い進学率に頼って、学習困難の学生に積極的に教える情熱がなくなって無視するって、完全に高い進学率を基準する教育に変わってきた。良い教師は学習困難の学生に関心を持って助けなければいけない。今反対に成績の優秀者、クラスを重点として、関心を持って、これは教育の基本的目的と理念に背反するのである。

(6) 応試教育

応試教育に反対しないが、試験がなければさらに公平性がなくなる。しかし唯一の基準は学生の進学率に集中したら、教育制度がひどく曲がられ、教育の資源が高点数のほうに集中している。例えば、重点学校に入れないと大学に進学するのが無望である。重点学校の学費が大変高く、ある学校は点数によって入るが、合格ライン以下の1点足りなければ学費を補充しなければならない。

現在、一人っ子を解禁され、しかし一つの家庭には2人の子どもを養うのは不可能である。1人の子どもさえ負担が重すぎて、このような状況が正常ではない。法律には義務教育、それは6年あるいは9年以内に保護者の負担なく楽にするが、幼稚園から学費が高すぎる現状がある。

このような曲がった教育制度は、教育機会の不平等が現れた要素である。それは正常な教育を劣化させる。現在、重点学校を発展することより、普通一般の学校を発展させなければならない。

(7) ピアノ教育⁽⁶⁾

a. ピアノと出会い

資中筠の幼児期には玩具のピアノに興味があつて、学んだ子どもの歌のメロディーを弾いた。師事したピアノの先生は若い有名な女性の先生で、厳しい先生であつた。基本の練習以外に、先生に綺麗な曲も弾かせられていた。このように資中筠のピアノの基礎をしっかりと身につけられた。

b. 真面目に学び

その時はピアノ等級の試験制度がなかった。子どもたちによく学ばせる為には学生音楽会開くことであつた。彼女は劉先生の門下にはよくピアノが上手の一人で、高校卒業時に先生の主催した元で彼女は個人の演奏会が開かれて、貴賓三、四百人がいた。

資中筠が自分の特別な音楽の才能持たず、ただ簡単なメロディーを読めると謙遜に言った。先天にも後天にも足りなく、だから課外の楽しみしかない。

音楽への情熱と彼女と良好の家庭教育によって、彼女が真面目に学んだ。先生についてピアノを毎日放課後、まず1時間のピアノを練習して、そして学校の宿題を完成していた。毎週1回先生の家でピアノの宿題を訂正していただき、そして新たな宿題を持ってくる。長年の間にずっと大切にピアノを練習していた。

c. 将来音楽家になろうと思わず

彼女の母親が彼女に将来音楽家になると思わず、母親の1つの信念があった。これを学んだら真面目に学んでいこうと母親の考えはピアノを買って、先生に頼んで、代償を払った。もし真面目に習わなければ、貴族の娯楽のように気ままに遊んで行けない。なので、母親はピアノの練習と他の宿題と同じように監督する。その時知り合いの子供たちはほぼピアノを買ったが、最後まで学ぶ人は少なかった。

今まで彼女が一度もプロのピアノ演奏家を思わなかった。全て自分の興味で続けてきた。清華大学外国語学部にいる間、彼女がたくさんの音楽活動に参加する為、週末の夜、音楽室でピアノを練習しずっと夜の10時までであった。

d. 定年退職後

66歳になって、正式に定年退職後、彼女はやっとますますピアノを多くの弾く時間があって、になって80歳以降、さらに懸命にて練習して何回もピアノ演奏会を開いて、またCDも制作した。

2012年、彼女は82歳の高齢で、第二回国際非職業ピアノコンクールに参加して、老後年組の第1位に獲得した。彼女が非職業の老人の中に完璧に楽譜を暗記した有数な人であった。千万個の楽譜を一つも間違いなく覚えていた80歳超えた人である。

彼女は中国と西洋科学をたくさん学んで、絶えず学んでいった。教えるのは苦手だが、学ぶこと、学生としては一番幸福である。

社会科学院の米国研究所長を担当、その時は1年間の訪問学者。60何歳の彼女は、いつもカバンを背負って図書館に資料を探しに行き、一人一人米国の教授を訪問した。相手はみんな40歳代であったが、または偶然の機会で上海音楽学院の指導をもらって、悟った。だから80歳以降にも継続して学ぶ

のはたくさんのかを身に着けることができる。

3、愛国観⁽⁷⁾

(1) 「民為貴」（人民が最も重要である）

孟子は「民為貴、社稷次之、君為輕」（国家の中で、人民が最も重要であり、土穀の神がこれに次ぎ、君主は軽い）とする。現在、人民共和国になって、さらに民を根本にすべきである。

この民は抽象的の臣民ではなく、生き生きとした一人一人の生存権を持つ人で、愛国はまず愛民にする。愛国は自強、変革、啓蒙、社会の進歩に関係する。

偉大な国は近代的国家で、最大限に各階層各職業の人に平等な権利と自己の幸福を得る国である。国土がどのように広いかと関係ないのである。

民主、自由、平等、公正、法治、文明は核心的の価値観とする。ただ愛国、そして「富強」をさせるのが、どのような「富強」なのか。「富」とは政府の財政と百姓にどちらの「富」なのか。「強」とは軍事以外に文化的、教育のレベルに「強」なのか。

(2) 醜い母親

一つのスローガンは「子どもがどんな醜い母親が嫌がらない」。愛国を例えるが、つまり、この国に問題があれば、改革をして、問題を改善しなければいけない。醜い母親をきれいな母親にしてあげて、それは愛国なのである。

今、スローガンをいくら声が大きくても、実はある人が足で投票する。移民が非常に多くになった。過去には、中国の資産家が基本的に中国の経済の発展を自分の責任として、自分の資産は外国に移転しなかったが、現在は財

産を外国に移転して、どこに安全であればどこに資産を移す。また、過去には、エリートたちは外国に行ったら多数で帰国して自分の国を改造した。現在は改造が難しくなって外国に行って自分の専門がよく発揮できる外国に流れてしまった。

このような状況下に、中国は本当に愛国の危機にあった。輸入国が人材を入らせて利益をもらって、輸出の国が人材は少なくなった。国際的競争の現実には無形な厳しさがある。

(3) 結 論

私はアメリカに行って、アメリカ人は自分の国を積極的に改造したい一人一人がいる。出会った人はある一定の教育を受けた、あるいは自分の事業を成功した人であった。みんなアメリカのこれがいけない、あれがいけないと批判して、それを改革するべきだと言っている。なぜならば、他国の人がアメリカに移民してきたが、アメリカが一番良いと。アメリカの新聞、さまざまなメディアが毎日アメリカの間違ったことを評判と批判している。私ははっきり覚えているアメリカの教授が、トランプを非常に反感して、トランプが大統領になったら移民すると言った。しかしトランプが大統領になった。彼はまだアメリカにいる。もし毎日トランプを罵って鎮圧される恐れがあるなら、彼は他国に行ってしまうのではないか。現在、国際化される愛国については新たな問題になって、結論にならなくなる。

終わりに

資中筠は幼児期からピアノの教育を受けて、その後、高校卒業時、清華大学時代、学業もピアノと一緒に成長した。今は、80代後半になった資中筠が中国の解放前と解放後、そして、文革の前とその後、中国社会科学院米国研

研究所の経歴と先進国の研究等を踏まえて、中国の改革開放40周年のまとめについて、率直に自分の観点と意見を提出した。彼女の思考は、将来への中国の発展のため、役に立てるのではないかと考えられる。筆者がこれから中国の国際的発展を祈ってやまないのである。

注

- (1) 資中筠（1930年6月から）、学者、翻訳家、中国社会科学院名誉委員、元中国社会科学院米国研究所所長、『米国研究』雑誌編集長。英語と仏語を精通し、国際政治と米国研究の専門家。人格と人望が高い「資中筠先生」「資先生」と呼ばれる。<https://>「資中筠」2019年1月24日閲覧（日本と中国には資中筠についての先行研究なし。本稿は中国語のみの資料で、筆者がまとめと翻訳したのである）
- (2) 「改革開放」とは1978年中国共産党11届3中全会で提唱した「国内に改革、国外に開放」「思想を解放し、事実を求めよう」、今日まで40周年を迎えた。<https://>「改革開放」2019年2月7日閲覧
- (3) 「1、政治経済観」の「(1) 誰が国の主人公？」と「(2) 真実の話の権利は？」は、<https://>「資中筠」2019年1月24日閲覧の資料を選んだ
- (4) 「(3) 階層の固定化？」は、<https://>「資中筠」2019年1月24日閲覧
- (5) 「2. 教育観」は以下の「(1) 教育の目的は？」と「(2) 教育と啓蒙は」と「(3) 独立の人格と自由の思想は？」と「(4) なぜ教育を受けるか」と「(5) 教育機構を作る目的は？」と「(6) 応試教育」は「人民網の83歳の資中筠」、「2013年8月23日資中筠『教育と啓蒙』」、<https://>「資中筠 教育」2019年2月13日閲覧
- (6) <https://>「資中筠」2019年1月24日閲覧。筆者はかつて「陶行知の芸術教育論」を研究していたが、思想の成長は芸術的思考とどう関係するかを興味があった。資中筠は幼少期から真面目にピアノを習っていて、87歳にも楽譜をしっかりと覚えた演奏がプロのピアニストではないが、今の改革開放40周年の言論は、彼女の思想が現れ、受けたピアノの教育とのつながりがあるかと考えられる。
- (7) <https://>「2018資中筠」2019年2月13日閲覧。

執筆者紹介（執筆順）

高 橋	強	創価大学文学部教授
耿	蘭	創価大学大学院博士後期課程院生
樋 口	勝	創価大学文学部教授
李	燕	創価大学文学部教授

（編集委員）

高 橋 強

創大中国論集

第22号

2019年3月31日発行

発行者 創価大学文学部人間学科中国語メジャー
〒192-8577 東京都八王子市丹木町1-236
電話 042-691-2211 (代)

印刷所 株式会社 清水工房

Soka University Bulletin of Chinese Studies

No.22 March 2019

CONTENTS

A study on the Proverbs and Common Sayings of *Tanghua Zuanyao* (『唐話纂要』)

by Kanzan Okajima — with a central focus on source books and received lessons

..... Tsuyoshi TAKAHASHI

Lan GENG

Socialism China and Soka's Thought Masaru HIGUCHI

Zhong yun Zi's Thought on Reform and Opening Yan LI

Chinese Major
Department of Humanities
Faculty of Letters
Soka University